

白川村総合戦略 基本的方向1 豊かな自然環境を活かした産業の創出

戦略1 自然に親しむ空間の保全と創出

①世界遺産、原生林、縦走登山の3つの魅力を古道で結ぶ「ロングトレイル事業」

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・白山白川郷ロングトレイルは、開山1,300年を迎えた日本三名山のひとつ“白山”と、この麓にある世界遺産“白川郷・合掌造り集落”を結ぶ、最長部約100kmのトレイル
- ・白川郷トレイルクラブが、日本山岳ガイド協会認定登山ガイドや、白山を愛するモンブランの会、山岳救助隊、猟師、トヨタ白川郷自然学校、観光協会など白川村村民を中心に様々な形でトレイルに関わる人たちにより2013年7月に結成された
- ・ロングトレイル事業は現村長のマニフェストに位置づけられている
- ・白山はH28.3白山ユネスコエコパークに住居エリアを含め拡張登録

【計画】やろうとしたこと

- ・ロングトレイル事業を推進し、緑や生態系のネットワーク化を考慮しつつ、村の豊かな自然風景を楽しんで散策できる自然歩道や登山道を整備する

【事業内容(手段)】やったこと

- ・白川郷トレイルクラブによるトレイルの整備
- ・白川郷トレイルクラブによるツアーガイドの提供

【結果】できたこと

- ・ロングトレイルの整備。富山県境以北は完成しており、白川村内で約25kmが未整備
- ・ツアーガイドが稼働している(回数等確認中)
 - ※H28年度目標20開催
 - ※ガイド報酬は日本山岳ガイド協会に準拠して日帰り3万円の設定
- ・専用ホームページ等による周知活動

【初期成果】生じた価値や変化

- ・ツアーガイドとして副業の創出
- ・外部人材の巻き込み

今後ほしい成果

- ・住民の関心や協力の獲得
- ・宿や道の駅の売上など、経済効果向上
- ・トレイル整備活動への参加協力者の獲得

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・ツアーガイドとして生業の創出
- ・豊かな自然環境を活かした産業の創出

【担当者の自己評価等】

A A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果がなかった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組み組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・住民ニーズに対応した施策ではなく、住民の関心度は低い
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・未計測である
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【課題】

できていないこと/理由

- ・地域住民のニーズに基づく事業ではないため、住民の関心度は低い
- ・自然環境を活かす意義や事業の可能性の周知

資金や、担当者の負担状況

- ・トレイルに関する事務負担もあるが、「やりっぱなしにしてはいけない」という精神的負担が大きい

できたら良いこと/理由

- ・ツアーガイドの自立的継続(補助に頼らない) ※年50回程度が目安
- ・トレイルクラブへの村民関与の増加 ※整備活動への関与など

【ヒアリングを踏まえたKPIの候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ガイドツアーの売上高(円/年)
- ・トレイルクラブの村民メンバー数(人)
- ・トレイル整備活動への参加者数(人/

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口1,700人を維持
- 【戦略/計画上の目的】

- ・ロングトレイル事業を推進し、緑や生態系のネットワーク化を考慮しつつ、村の豊かな自然風景を楽しんで散策できる自然歩道や登山道を整備する

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・年間ロングトレイル利用者数(人) 現状不明⇒H31年500

- 【対象】 村民、来訪者
- 【担当】 商工観光係

【委員の事業評価】

B Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・0名
- B 成果が期待できる・・・7名
- C 成果が期待できない・・・1名

《産学金労言》

- 住民の関わりが大切だと感じる。住民がガイドができるような人材育成講座ができないだろうか。
 - 自然に親しむのは村のアイデンティティで、収入が見込めない点に知恵を絞る。地域おこし協力隊など他政策を用いる。
 - 富山の方ができており、岐阜県側が遅れていると知った。村内未整備25キロを早期達成するべきです。区長を通じて、人足出役制で整備をすることで、村民全部に関心を持ってもらう。村民の事業参加が増えないと話題にもならない。山好きな人もたくさんいるので、人海戦術で話題性が村民の中に出てくるのではないかな。
 - ガイドの村民への認識向上が必要。
 - 現在のトレイルに対する需要はどの程度なのか、くわえて維持管理にかかる費用、職員負担はどの程度なのか。設定した一定期間においてガイドの生計が立たないのであれば、民間有志にゆだねるなど、運営方法を行政主体から切り離すべきではないか。
 - PR等周知が必要だと思います。
- 《官》
- 良い事業なのだがうまく成果が出ない。これを専業でやろうという方が出ず、副業として携わっている。一人でも二人でも事業化する人が出てくるとありがたい。
 - 白山登山届の提出が義務化になった。大いに進めて欲しい。

【新たなKPIの候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・5名
- 条件付きで賛同・・・2名
- 他指標を提案・・・2名

《産学金労言》

- ガイドの村民への認識向上が必要である。
 - ツアーガイドの収入があまり見込めない。住民の関心も低いので、長い目で考えたい。
 - 整備状況(完了/計画等)を入れてはどうか。
- 《官》
- 整備計画の拡大が必要では？

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向1 豊かな自然環境を活かした産業の創出

戦略2 先進環境社会の創出

①水力、バイオマス等、自然エネルギーの積極的な活用

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・二酸化炭素の排出量削減に向けて国内外で取り組みが進む中、村の資源を活用する形で水力やバイオマスによる発電促進する意義がある。
- ・関西電力の声掛けにより、平瀬地区の道の駅や温泉入浴施設「しらみずの湯」で電力を活用する小水力発電を設置した。過疎債での借入れ償還が終わるまであと5~6年は現状維持する必要がある。本戦略項目はその活用に該当する。
- ・「しらみずの湯」は、国補助で共同浴場を新設した、環境省の国民保養温泉地に関する事業であった。

【計画】やろうとしたこと

- ・「しらみずのチカラ」の効果的な運用とさらなる水力、バイオマスなど自然エネルギーを活用した発電事業を推進する

【事業内容(手段)】やったこと

- ・地熱発電をはじめとする事業者対応
- ・小水力発電の維持管理、新規設置事業への参画
- ・岐阜県スマートコミュニティ推進協議会への参加(H29年より始動予定)

【結果】できたこと

- ・検討により自然エネルギー発電の採算確保の難しさが確認された。
- ・企業による太陽光発電設置が1件あり、景観審議会が景観上の問題を指摘する意見書を提出し、今後は設置しない方向性が明らかになった。
- ・国が補助する県事業として、H30年に戸ヶ野の水路を活用した小水力発電施設整備が稼働予定。(130KW規模、村は25%負担&維持管理を担い、売電収入2,500万円以上を期待)

【初期成果】生じた価値や変化

- ・国全体としての自然エネルギー活用への貢献
- ・小水力発電施設整備の進捗
- ・村内の電気自給率の向上

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・自然エネルギーを活かして暮らす村
- ・先進的な環境社会の構築

今後ほしい成果

- ・発電した電気の積極的活用
- ・二酸化炭素の排出量の削減効果の周知
- ・発電した電気の売電収益の向上

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった) B(戦略として効果があった) C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい

【課題】

できていないこと / 理由

- ・バイオマスは材料資源の確保が困難で、投資メリットが少ない。
- ・地熱発電は温泉への影響が懸念されている。
- ・水力発電の立地として村のエネルギー自給率は100%以上であり、事業成果である先進的な環境社会の構築は日本全体の課題対策への貢献となることが周知されていない。
- ・自然エネルギーの積極的活用の意義が村民としてイメージしにくく、関心が薄い。
- ・発電電力を活用して余剰電力を売るより、全量売電の方が財政的に有利であり、100%売電に移行して配電設備も撤去済みである。
- ・発電施設(小水力)に大規模改修が5~10年先に見込まれ、積み立てしている。

資金や、担当者の負担状況

- ・国や県といった村外の資金を活かした施設整備が行われている。
- ・給水の水位計等、発電施設にトラブルが生じると職員が現場に行かなくてはならないこともあり、保守には費用以上の負担がある。

できたら良いこと / 理由

- ・自然エネルギーを供給して世界的課題の解決に貢献している現状を周知する。
- ・省エネの支援と指導により、村民にメリットのある形で自然エネルギーの積極的活用を進める。
- ・売電目的に変更して継続する場合、収益の安定化ができるが良い。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・二酸化炭素排出量削減の計画策定(有無)
- ・村内の電気自給率(%)
- ・定期改修と維持費用を考慮した売電収益(円)

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・住民ニーズは高くない上に、村が実施する理由「エネルギーの積極的な活用」が消失している。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・未計測であるが、住民の満足度では事業成果を表現できないため、KPIの再設定が求められる。
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略 / 計画上の目的】

- ・エネルギー自給率 100% を目指す先進的な環境社会の構築に向けた対応施策を検討する。また、村民の省エネルギー生活を支援・指導する。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・省エネ対策に満足していると回答した人の割合(%)
H22年 21.2⇒H31年 35.0

【対象】 村民
 【担当】 建設係、環境係

【委員の事業評価】

B Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

A 非常に成果が期待できる・1名
 B 成果が期待できる・・・5名
 C 成果が期待できない・・・1名

《産学金労言》

- CO2削減計画の策定は、その先に何を求めるのかによって策定するのかを判断すべき。村内の最大排出先は？
- エネルギーが不足しているなら自給する意義はあるが、村で不足していないのに素人が供給する意義が無い。エコな村づくりの看板があっても効果が無い気がする。専門家に任した方がよい。
- 現在の契約体系において収支黒字であれば、継続する意義はあると考える。ただ一方でエコな村、というイメージを定着させるためには広報等新たな作業が必要になると考えられるが、その必要性については費用対効果の面で懐疑的である。エネルギー政策全般に関する計画はあるか、ガソリンや灯油が困るレベルで高いのか。
- 電気自給率の向上や二酸化炭素の排出量の削減は素晴らしい。白川は、灯油をたくさん使うので電気でもかなえればよいと思う。

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・2名
 条件付きで賛同・・・2名
 他指標を提案・・・2名

《産学金労言》

- CO2削減計画の策定は、その先に何を求めるのかによって策定するのかを判断すべき。村内の最大排出先は？
- 「二酸化炭素排出量削減の計画策定」について、疑問が残る。単純に二酸化炭素の排出量を減らすよりも、創成するエネルギー量も考慮できるよう、エネルギー収支プラスを目指すほうがよいのではないかと。
- 《官》
- 村内電気自給率を調べることは現時点で難しいのでは
- 整備箇所数の表記を入れてはどうか。

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向1 豊かな自然環境を活かした産業の創出

戦略2 先進環境社会の創出

② クリーンエネルギーの推進

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】 そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・ 二酸化炭素の排出量削減に向けて国内外で取り組みが進む中、観光地への車 両乗り入れについて、クリーンエネルギー車等の利用を促進する意義がある。
- ・ **世界遺産エリアの中心部では、車両の乗り入れ規制を既に実施している。**
- ・ 県内の道の駅(55箇所)の多くに電気自動車用の充電施設が設置されている。

【計画】 やろうとしたこと

- ・ 大白川などの自然資源や世界遺産地区などの文化資源における観光車両の乗り入れ規制の推進や、クリーンエネルギー車等の優先活用推進

【事業内容(手段)】 やったこと

- ・ 既に実施していた世界遺産集落内への自家用車乗り入れ規制の継続
- ・ 電気自動車の充電施設の設置促進

【結果】 できたこと

- ・ 自家用車乗り入れ規制の継続(将来は公安規制に)
- ・ 村内2つの道の駅に**電気自動車用の充電施設が完成**(H27年に平瀬と飯島両地区に完成)

【初期成果】 生じた価値や変化

- ・ 国全体としての二酸化炭素の排出量削減への貢献
- ・ 村内の**交通環境の改善**

今後ほしい成果

- ・ **二酸化炭素排出量削減**効果の村民への周知

【長期成果】 将来的にねらいたいこと

- ・ 自然エネルギーを活かして暮らす村
- ・ 先進的な環境社会の構築

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・ 検証コメントを参考にしたい
- ・ 新たな KPI を参考に組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

【課題】

できていないこと / 理由

- ・ クリーンエネルギー車を利用 / 優遇する**意義が村民としてイメージしにくい。**

資金や、担当者の負担状況

- ・ 新たな乗り入れ規制の設定や、クリーンエネルギー車の優先制度をつくるには、担当者が他地域の情報収集から行う必要がある。

できたら良いこと / 理由

- ・ 乗り入れ規制等を通じて、世界的課題の解決に貢献している現状を周知する。
- ・ 省エネの支援や情報提供により、村民にメリットのある形でクリーンエネルギー車等の積極的活用を進める。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ **二酸化炭素排出量削減の計画策定(有無)**
- ・ **クリーンエネルギー車の活用を示す PHV/EV 公用車の比率向上(台数や比率%)**

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略 / 計画上の目的】

- ・ エネルギー自給率 100% を目指す先進的な環境社会の構築に向けた対応施策を検討する。また、村民の省エネルギー生活を支援・指導する。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・ 「省エネ対策に満足している」と回答した人の割合(%)
H22年 21.2⇒H31年 35.0

【対象】 村民、来訪者
 【担当】 環境係、商工観光係

【委員の事業評価】

B
 Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・2名
- B 成果が期待できる・・・4名
- C 成果が期待できない・・・1名

《産学金労言》

- 事業の取り組みを全国的に発信すると良い。
- 現在のEVは雪寒地域、起伏の大きい地域ではモーター、暖房の消費が大きくなり、航続距離が短くなる、効率性が悪いなど不利と言われている。その状況を精査しなければ、EVを導入することによりガソリン車よりかえってエネルギー消費を増大させる可能性もある。一方で、ガソリンを白川村まで輸送する費用やエネルギーを考慮すると、自給できることによる効果もある。したがって、エネルギーの収支を踏まえた計画が必要になるのではないかと考える。
- エネルギー政策全般に関する計画はあるか、ガソリンや灯油が困るレベルで高いのか。
- クリーンエネルギー車普及に補助金制度が必要と思います。
- 充電施設はいいことです。
- 《官》
- クリーンエネルギーは、村としてどこまでか、個人的に疑問。計画自体の内容を見直す必要があると思う。
- 年間1,000万円出してガードマンを入れるなら、村民にとって不便にはなるが、普通車の乗り入れ規制もありえるのではないかと考える。

【新たな KPI の候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・1名
- 他指標を提案・・・2名

《産学金労言》

- 「二酸化炭素排出量削減の計画策定」について、疑問が残る、単純に二酸化炭素の排出量を減らすよりも、創成するエネルギー量も考慮できるよう、エネルギー収支プラスを目指すほうがよいのではないかと考える。
- 公用車の活用は期待が少ない。

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向1 豊かな自然環境を活かした産業の創出

戦略3 環境教育先進地としての基盤整備

① 環境教育や里山体験、エコツアーなどの充実

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・総合計画(前期)の段階から、トヨタ白川郷自然学校の活用に取り組んできた。
- ・過去にも豊かな自然環境として大白川エリアの活用に取り組んだが、地域の生業につなげるのは難しい状況にあった。

【計画】やろうとしたこと

- ・トヨタ白川郷自然学校を中心として NPO 法人白川郷自然共生フォーラムの組織を強化し、環境教育や里山体験、エコツアーなどのプログラムの充実や、利用者の誘致に向けた情報発信。
- ・ロングトレイル事業(戦略1-①より再掲)

【事業内容(手段)】やったこと

- ・トヨタ白川郷自然学校への業務委託(環境教育や里山体験、エコツアーの実施)
- ・白山に関する8つの協議会への参画

【結果】できたこと

- ・トヨタ白川郷自然学校によるエコツアーの開催と充実
- ・白山関係の協議会の取り組み「白山開山1300年イベント」などへの参画
※8つの協議会とは、白山国立公園岐阜県協会、白山林道振興協議会、環白山保護利用管理協会、白山白川郷100kmウルトラマラソン実行委員会、白山林道運営協議会、環白山観光推進協議会、白山ユネスコエコパーク、白山白川郷ホワイトロード利活用推進協議会

【初期成果】生じた価値や変化

- ・収入源とする住民が生まれた(副業2名)

今後ほしい成果

- ・エコツアー等を副業や生業とする住民の顕在化
- ・担い手を育む機会づくり

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・子どもや若者が仕事として魅力を感じる自然環境活用事業の定着
- ・従来とは異なる

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・住民ニーズに対応した施策ではなく、住民の関心度は低い
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・未計測である
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【課題】

できていないこと/理由

- ・自然環境を活かした取り組みが生業に至らず、むしろ重荷になってしまうことがある。
- ・世界遺産と白山に来訪のある現状で、今以上に来訪客を加えるマンパワーと動機が足りない。村全体における役割や対象者の絞り込みが必要。
- ・白山に関する広域連携により、イベントに参画しなくてはならない。
※参加自治体による温度差は大きい。

資金や、担当者の負担状況

- ・トヨタ白川郷自然学校が重要な担い手である。
- ・各種協議会(白山関係だけで8つの協議会)に担当者の割く時間が多い。

できたら良いこと/理由

- ・参画する協議会の整理
- ・「みらい会議」などで、自然環境の価値や事業化の可能性を村民に示していく。

【ヒアリングを踏まえたKPIの候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・教育プログラムやエコツアーの売上高(円)
- ・副業や生業とする住民の数(人)

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口1,700人を維持
- 【戦略/計画上の目的】

- ・トヨタ白川郷自然学校や天生県立自然公園協議会、白山ユネスコエコパーク協議会、環白山保護利用管理協会と協働し、環境教育の基盤を作る。これを国内外に広くPRして新訪問客層を確保する。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「環境教育に満足している」と回答した人の割合(%)
H22年 31.2⇒H31年 45.0

- 【対象】 村民、来訪者
- 【担当】 商工観光係、学校・社会教育係

【委員の事業評価】

B Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・1名
- B 成果が期待できる・・・6名
- C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 協議会の整理はいい。
- トヨタ自然学校という特別な施設で、組織が村内にあることの意義は大きい。一企業の施設としてほっておくのではなく、活用して、それが自然学校の経営にプラスになるようにしたい。村では観光客への体験(提供)の段取りを民宿で行ってきたが、高齢化しており、自然学校のインタープリターが売上につなげていけるといい。
- 短期的には白川村が関与し、収入源となる住民が生じるまで導く必要があると考えるが、長期的には民間で運営できるようにシフトしていく必要があるのではないかと。
- PR等周知が必要と思います。

【新たなKPIの候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・4名
- 条件付きで賛同・・・2名
- 他指標を提案・・・0名

《産学金労言》

- 指標として、村民のエコツアーなどへの参加人数を項目に入れてもいいのでは。
- 設定した一定期間でKPIが達成されないときには、打ち切りも必要ではないか
- 《官》
- ロングトレイルとの関連性を入れてはどうか。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向2 山村でも安心して生活できる基盤の整備

戦略 4 情報通信網の充実

①世界遺産エリア、災害避難拠点等での公衆無線 LAN 導入の促進

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略 / 計画上の目的】

【対象】 村民、来訪者、店舗営業者
 【担当】 庶務係、商工観光係

・災害などの緊急時や防災に利用できる安定した情報通信体制の整備を目指す。

【KPI(重要業績評価指標)】
 ・「情報・通信に満足している」と回答した人の割合(%)
 H22年 31.9⇒H31年 50.0

【委員の事業評価】
 A Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

担当者ヒアリングより ※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・世界遺産エリアの中心部では、住民 550 人に対して観光客が 4,700 人という比率で来訪しており、**災害時の誘導や情報提供が課題**となっている。
- ・**災害避難拠点等に、公衆用の情報通信手段がない。**
- ・何を必要としているか詳細な検討はできていなかったが、補助金活用も動機の一つとなり、公衆無線 LAN に着目した経緯がある。
- ・戦略 5 -②**安心安全な観光地づくりの内容と連携 / 重複**している。

【計画】やろうとしたこと

- ・民間事業者による公衆無線 LAN の導入促進
- ・災害避難拠点等への無線 LAN 導入

【事業内容(手段)】やったこと

- ・白川郷 WiFi (au) の整備促進
- ・フリー WiFi (NTT) の整備促進
- ・docomoWiFi の整備促進

【結果】できたこと

- ・白川郷 WiFi (au) の導入 41 施設(荻町や平瀬地区)
- ・フリー WiFi (NTT) の導入 1 箇所(荻町の休憩所)
- ・docomoWiFi の導入 2 箇所(せせらぎ駐車場・バスターミナル)

【初期成果】生じた価値や変化

- ・災害時の情報入手経路の確保を含む、**観光客の利便性向上**(導入済み店舗や施設等にて)

今後ほしい成果

- ・**災害避難拠点等において、来訪者が情報弱者にならない。**

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・**安心して暮らせる / 来訪できる村**
- ・利用する観光客のログデータを、防災や振興に活用

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果がなかった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たな KPI を参考に組み組みたい

【課題】

できていないこと / 理由

- ・外国人を含む観光客向けの、**災害対応の全体が検討されていない**ため、災害時に必要な情報通信体制が何かを特定しにくい。
- ・目的達成に必要な**方策は、公衆無線 LAN に限定されない。**
- ・来訪者の災害時の情報入手を目的とするか、**日常的な利便性向上を目的とするか**により、導入すべきものが異なる。

資金や、担当者の負担状況

- ・新たな検討や導入には、調整役となる担当職員のマンパワーが求められる為、**担当部署の強化を図る必要がある。**

できたら良いこと / 理由

- ・店舗への導入は進んでおり、次のステップとして、**災害避難拠点等への公衆通信インフラの導入**
- ・災害避難拠点等における情報通信体制として、協定を締結している**携帯キャリアによる移動基地局**の導入(au)
- ・災害避難拠点等に通信環境を整備する際に必要となる、PHV や蓄電システムなどによる**電源の確保**
- ・災害避難拠点等における情報通信体制として、既存の民間団体(アマチュア無線等)を含む、**多様な通信手段の備え**

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】 課題解決や成果状況を把握する目安

- ・**情報通信体制を確保した災害避難拠点等の数(箇所)**
- ・**PHV/EV 公用車の比率向上など、避難拠点で使用可能な電力確保の状況(台数や箇所数)**

検証委員会より

【事業について】
 A 非常に成果が期待できる・6名
 B 成果が期待できる・・・2名
 C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 下呂市DMO委員会が開発したGPS機能を活用したオフラインでの利用が可能なアプリを活用できないか(英語、中国語対応)
- 災害とか防災は、村民の意見を聞く必要はなく、行政が適正に進めていくべき事業である。
- 観光客は外国人が多く、その誘導と合わせて対応すると良い。
- 無線 LAN の整備は観光地としては必須だと考える。一方で、災害時の総合的な避難計画、誘導計画は整備されているのでしょうか。LAN のスポットや必要数はそれにより定められるべきと考える。
- 安心して暮らせる村や来訪できる村は必要なことで、通信システムは重要である。

《官》

- 光ケーブルではなく携帯電波を使った Wi-Fi 設備が普及してくれば、有事の際には観光施設から防災施設に移すといった方法も考えていきたい。携帯キャリア間の互換性や協力も課題。
- Wi-Fi は必須だし、避難誘導に活かしていかななくてはならない。まずは A4 サイズのマップに避難所を記載して対応する。できることから進めていきたい。

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・7名
 条件付きで賛同・・・0名
 他指標を提案・・・2名

《産学金労言》

- EV の採用は条件整理が必要。もし、災害拠点に導入するのであれば日常も使用可能な蓄電設備を検討することも考えるべきではないか。

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・住民ニーズは高くないが、来訪者の多い自治体として備えていく必要がある。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	・実現手法は公衆無線LANに限らない。 ・未計測であるが、住民の満足度では事業成果を表現できないため、KPIの再設定が求められる。
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向2 山村でも安心して生活できる基盤の整備

戦略4 情報通信網の充実

②白山火山防災に向けた通信網の強化と携帯電話のエリア化

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・白山国立公園内では携帯電話が使用できない。
- ・村内の登山道として平瀬地区大白川上流の白水湖から入る経路がある。
- ・現状の通信体制として、イリジウム衛星携帯、アマチュア無線、衛星通信の3経路。
- ・白山火山防災として、情報通信網の強化が必要である。
- ・平常時の利便性向上ニーズもある。
- ・戦略5-②安心安全な観光地づくりの内容と連携/重複している。

【計画】やろうとしたこと

- ・白山国立公園内における携帯電話のエリア化を推進し、白山火山防災に向けた情報通信網の強化を図る

【事業内容(手段)】やったこと

- ・携帯キャリアによる携帯電話アンテナの整備促進
- ・ロッジから観光客への情報提供手段の検討

【結果】できたこと

- ・携帯キャリア「au」との協定締結
- ・平瀬登山道の入口にある大白川エリアにて、携帯キャリア「au」によるアンテナの設置(白水湖畔、白水の滝、キャンプ場、登山道の一部)
- ・同大白川に、緊急電話とAEDの配備
- ・平成29年度、ロッジ周囲に拡声器による情報提供の導入

【初期成果】生じた価値や変化

- ・遭難事故対策における連絡経路の多様化
- ・災害時の情報入手経路の確保を含む、観光客の利便性向上
- ・情報通信経路の多様化による安心感の向上

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・安心して暮らせる/来訪できる村

今後ほしい成果

- ・噴火時の避難先候補地での通信手段確保
- ・他の携帯キャリアが利用可能となる

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組みみたい

【課題】

できていないこと/理由

- ・環境省の規制によって既存の鉄塔しか選択肢が無く、電源開発の管理用施設にアンテナ設置できるのは1社に限られるため、「au」以外の設置見直しは無い。
- ・噴火等の緊急時に、携帯キャリア間で電波を共用できない。
- ・携帯電話のエリア化は、登山道の全てではない。
- ・来訪者の災害時の情報入手に付随して、電源関連施設等への緊急避難可否と、施設で使用可能な情報経路が求められる。

資金や、担当者の負担状況

- ・白山火山防災は、他自治体や県と連携して進められており、防災計画や避難計画づくりとして業務量が多い。
- ・新たな検討や導入には、調整役となる担当職員のマンパワーが求められるため、担当部署の強化を図る必要がある。

できたら良いこと/理由

- ・白水湖付近にある電源関連施設等との協定による、噴火避難の依頼や情報経路の確保
- ・緊急時、他携帯キャリアの端末による「au」電波の共用
- ・PHVや蓄電システムなどによる電源の確保
- ・既存の民間団体の動向(アマチュア無線等)を含む、多様な通信手段の備え
- ・大倉山から上部のエリアにて docomo が開通準備中

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・情報通信体制を確保した噴火避難施設等の数(箇所)
- ・多様な通信手段の確保(経路数)
- ・PHV/EV 公用車の比率向上など、避難拠点で使用可能な電力確保の状況(台数や箇所数)

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・住民ニーズは高くないが、来訪者の多い自治体として備えていく必要がある。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	・未計測であるが、住民の満足度では事業成果を表現できないため、KPIの再設定が求められる。
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略/計画上の目的】

- ・災害などの緊急時や防災に利用できる安定した情報通信体制の整備を目指す。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「情報・通信に満足している」と回答した人の割合(%)
 H22年 31.9⇒H31年 50.0

【対象】 来訪者、村民
 【担当】 庶務係、産業振興係

【委員の事業評価】

A
 Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

A 非常に成果が期待できる・5名
 B 成果が期待できる・・・3名
 C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 災害とか防災は、村民の意見を聞く必要はなく、行政が適正に進めていくべき事業である。
- 災害時の総合的な避難計画、誘導計画は整備されているのでしょうか。必要数はそれにより定められるべきと考える。

《官》

- 白山について docomo さんが大倉山から上をつなぐとの情報がある。ソフトバンクにも波及を期待している。大白川ではサイレンスピーカー設置に動いている。

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・7名
 条件付きで賛同・・・0名
 他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- EVの採用は条件整理が必要。もし、災害拠点に導入するのであれば日常も使用可能な蓄電設備を検討することも考えるべきではないか。
- 災害時の総合的な避難計画、誘導計画は整備されているのでしょうか。必要数はそれにより定められるべきと考える。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

戦略5 防災力の強化

①庁舎移転等による防災拠点の強化

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・地震災害、大雨による土砂災害やダム放流災害、豪雪、噴火などが想定される。
- ・役場庁舎建物は、地震対策の改修を実施済みであるが、強度は万全ではない。
- ・役場庁舎建物は、**土砂災害の警戒区域に立地**している。
- ・H29年に費用の積み立てを開始する予定である。

【計画】やろうとしたこと

- ・土砂災害警戒区域にある既存庁舎の移転や各地域の防災拠点について検討し、大災害時に対応できる体制の強化確立

【事業内容(手段)】やったこと

- ・土砂災害警戒区域にある既存庁舎の移転や各地域の防災拠点の検討
- ・ハザードマップの作成

【結果】できたこと

- ・具体的な移転先候補地について、検討している

【初期成果】生じた価値や変化

- ・防災対策として、大災害時に対応できる、**防災機能強化に適う立地**が検討されている

今後ほしい成果

- ・防災対策として、設備機能や運用体制による**防災拠点強化の検討**

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・大災害時に対応できる体制を確保することにより、**安心して暮らせる/来訪できる村**

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果が無かった)

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○ ・未計測であるが、住民の満足度では事業成果を表現できないため、KPIの再設定が求められる。
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略/計画上の目的】

【対象】 村民、来訪者
 【担当】 庶務係

- ・頻発する災害を想定し、徹底した避難訓練の実施と防災対策を進める。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「防災対策に満足している」と回答した人の割合(%)
 H22年 35.7⇒H31年 50.0
- ・避難訓練参加率(%) H24年 45⇒H31年 50

【委員の事業評価】

A

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

- 【事業について】 A 非常に成果が期待できる・3名
 B 成果が期待できる・・・3名
 C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 庁舎問題は全国的に老朽化、時代のトレンドで「防災」と出るが、庁舎に求める機能は白川村ならではの、複合的なものでも良い。
- 庁舎移転は、老朽化したからなのか、何を防災として見ているのか、曖昧さがあるので、はっきり区別したほうが村民として理解できる。
- 安心して暮らせる村として、大変重要なことである。予算が問題であるが、必要である。

《官》

- 庁舎はイエローゾーンなので、一刻も早く安全な場所に移転するという話が出て、H28年から積み立てを開始した。早く2～3年かかる。職員としては会議室が少なく、老朽化もあるので、早く建てて欲しい。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・**庁舎移転計画の策定(有無)**

【新たな KPI の候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・2名
- 他指標を提案・・・0名

《産学金労言》

- 老朽化に伴う移転なのか、防災強化が目標なのかを明確にすること。
- 財政をふまえ協議すべき。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向2 山村でも安心して生活できる基盤の整備

戦略5 防災力の強化

②安心安全な観光地づくり

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・地震災害、大雨による土砂災害やダム放流災害、豪雪、噴火などが想定される。
- ・世界遺産エリアの中心部では、住民550人に対して観光客が4,700人という比率で来訪しており、**災害時の誘導や情報提供が課題**となっている。
- ・白川村内の登山道として、平瀬地区大白川上流の白水湖から入山する経路がある。
- ・**戦略4 情報通信網の充実** -①世界遺産エリア、災害避難拠点等での公衆無線LAN導入の促進、-②白山火山防災に向けた通信網の強化と携帯電話のエリア化、と**連携/重複**している。

【計画】やろうとしたこと

- ・「(仮称)観光客避難マニュアル」の策定
- ・「(仮称)白山火山ハザードマップ」の策定
- ・防災対応に関する観光客への周知

【事業内容(手段)】やったこと

- ・防災関係の表示促進
- ・関係自治体等と連携して、「(仮称)白山火山防災計画と避難計画の協議や策定
- ・世界遺産エリア中心部から避難拠点への経路確保

【結果】できたこと

- ・観光マップ等への防災関係サインの導入
- ・H27年「白山火山防災計画」を策定
- ・H28年「白山火山避難計画」を策定し公開
- ・避難拠点として期待される寺尾(地区)への橋や道の整備。
- ・土砂災害に関する防災訓練を、年に1回開催(H27 戸島、H28 鳩谷)

【初期成果】生じた価値や変化

- ・**防災情報を観光関係のマップから**得られる安心感の向上
- ・**情報通信経路の多様化**による安心感の向上
- ・白山火山噴火への行政連携による安心感の向上

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・**安心・安全な観光地**の推進
- ・**安心して暮らせる/来訪できる村**

今後ほしい成果

- ・白山火山噴火に関する情報の周知
- ・**外国人を含む観光客避難マニュアルの策定と周知**
- ・避難マニュアル関係者による意見交換や運用訓練

【担当者の自己評価等】

A A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組み組みたい

【課題】

できていないこと/理由

- ・観光客対応全般の検討を踏まえた「**観光客避難マニュアル**」策定
- ・**外国人来訪者**に関する災害対応
- ・災害時の観光客対応に関する**村民/事業者への周知**
- ・放流被害の経験から、ダム崩壊を懸念する声に対応する情報提供
- ・担当1名で火山防災と観光客避難マニュアルの**同時進行が困難**
- ・過去に消防団で運用していたアマチュア無線が、免許不所持問題で一旦白紙化しており、現在は約26台のトランシーバーのみ

資金や、担当者の負担状況

- ・防災計画や避難計画づくりは業務量が多くなる。他の自治体との**連携による期限があり、火山防災を先に着手した。**
- ・新たな検討や導入には、調整役となる担当職員のマンパワーが求められるため、**担当部署の強化を図る必要がある。**

できたら良いこと/理由

- ・「(仮称)**観光客避難マニュアル**」策定
- ・「白山火山防災マップ」を策定し、村民/観光客(登山者)が**使用できるように周知に努める**
- ・**外国人を含む観光客対応の課題を洗い出し**、改善につなげるための**意見交換会や訓練等**の実施
- ・誘導をはじめとする**村内連絡**に使用できる通信手段(携帯キャリアとの協定)や、民間を含むアマチュア無線局の増加

【ヒアリングを踏まえたKPIの候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・**外国人を含む観光客の避難マニュアル策定**(有無)
- ・**避難マニュアルを活かす勉強会や訓練の開催**(回数)
- ・**観光客誘導に用いる多様な通信手段の確保**(手段数)
- ・**避難マニュアルの関係者理解度**(%)

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・未計測であるが、住民の満足度では事業成果を表現できないため、KPIの再設定が求められる。
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略/計画上の目的】

- ・頻発する災害を想定し、徹底した避難訓練の実施と防災対策を進める。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「情報・通信に満足している」と回答した人の割合(%)
 H22年 31.9⇒H31年 50.0
- ・避難訓練参加率(%) H24年 45⇒H31年 50

【対象】 来訪者、村民
 【担当】 庶務係、商工観光係

【委員の事業評価】

A Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

A 非常に成果が期待できる・5名
 B 成果が期待できる・・・3名
 C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 行政の義務業務である。
- 世界遺産エリア、災害避難拠点等での公衆無線LAN導入の促進と関係して事業を進めると良い。
- 看板も含め、全村で観光客にけがをさせないという全体計画があると道筋を立てやすいのではないかと。

【新たなKPIの候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・8名
 条件付きで賛同・・・0名
 他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- 世界遺産エリア、災害避難拠点等での公衆無線LAN導入の促進と関係して事業を進めると良い。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向3 子どもから高齢者まで心身共に安心して生活できる環境の整備

戦略6 健康づくりの支援

① 健康増進に向けた運動環境の充実

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- 健康の課題として、脳卒中と心疾患が多いが、その要因となる高血圧/高血糖/メタボリック症候群/高脂血症を悪化させないことが求められる。
- H27年より保健師、H28年より管理栄養士が採用され、健康づくりの支援体制が充実してきた。
- 特に「肥満」該当者の人口比率が、岐阜県で高い。
- クアオルトと称される健康ウォーキングのアワードがあり、ノウハウの吸収や何らかのサポートを獲得するためにエントリーしている。

【計画】やろうとしたこと

- 健康診査の充実と受診率向上を図るとともに、健診結果から自分の身体の状態を知った上で、栄養・運動・休養の3本柱において健康づくりを推進する

【事業内容(手段)】やったこと

- 健診の受診率向上と保健指導の強化
- 健康維持のための運動推奨
- 「健康ウォーキング」

【結果】できたこと

- 賞品付きのウォーキング手帳
- 成人向けの、寝たきりや認知症予防運動
- 保健師の家庭訪問
- トヨタ自然学校の敷地で「健康ウォーキング」を実施。1.5 km程度のコースで村民対象
- 「健康ウォーキング」の成果を血圧測定により見える化して紹介

【初期成果】生じた価値や変化

- 脳卒中と心疾患の要因となる症状の改善

今後ほしい成果

- 運動に改善を期待する肥満以外の症状の周知
- 健康運動の習慣づけ
- 「健康ウォーキング」の多数村民による実施

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ピンピンコロリの実現
- 寝たきりによる介護離職を防ぐ
- (県下2位である) 介護保険料や医療費の抑制
- 生活の不安を理由とした転出の抑制

【担当者の自己評価等】

A A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果が無かった)

- 検証コメントを参考にしたい
- 新たなKPIを参考に組み組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷

【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持

【戦略/計画上の目的】

- 健康診査の充実と受診率向上を図るとともに、健診結果から自分の身体の状態を知った上で、栄養・運動・休養の3本柱において健康づくりを推進する

【KPI(重要業績評価指標)】

- 村の肥満者の割合(%) H22年 31.9⇒H31年 50.0

【対象】 村民

【担当】 村民健康福祉係

【委員の事業評価】

A

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・4名
- B 成果が期待できる・・・4名
- C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 健康診断の結果資料は白川診療所には来ない。村で支援しているにも関わらずデータ蓄積が診療所にされておらず、担当医が把握できないので、もう少し有効な活用が望まれる。企業が行う検診及び住民健診の検査結果資料を、村内診療所が把握すると良い。
- 健康ウォーキングも大切だが、農業を通じて、作る楽しさや体を動かすことで健康管理を行ってはどうか。退職された方が農業をすると健康に良いし、医療費抑制に良い。白川村でも観光以外で、収入と健康面で生き甲斐がある生活ができるのではないか。

【新たな KPI の候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・8名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・0名

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向3 子どもから高齢者まで心身共に安心して生活できる環境の整備

戦略7 地域福祉の充実(移動支援サービスの充実)

① 高齢者等交通弱者が村内外へ移動する際の支援

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・村外とつながる路線バスは通っているが、南北に長い村内移動に使うバスは無い。
- ・身内に車の無い人もおり、診療や買い物の足を確保する必要がある。

【計画】やろうとしたこと

- ・村民のニーズと利用状況を勘案して村民が移動しやすい各種移動支援サービスを行う。
- ・高齢者等交通弱者が村外へ移動する際に、ドアからドアへの支援サービスを提供する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・まめなカー(村内移動)
- ・福祉バス(村内移動)
- ・いかまいカー(高山市方面)

【結果】できたこと

- ・75歳以上、障がい者手帳、運転できないといった要件で利用できるバス運行
- ・村内移動 ⇒ 予約無しでタスキで乗車し、月108~140名/H28年
- ・高山市方面 ⇒ 予約制で玄関先まで迎車して8時頃出発16時頃帰宅する。透析用の車両の空き(火木曜)を活用し、最大3~5名が乗車、月14~28名/H28年

【初期成果】生じた価値や変化

- ・村内で診療や買い物に行ける
- ・村内に無い施設等に行ける

今後ほしい成果

- ・多様な村民の利用
- ・活用方法の周知

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・車が無くても(やめても)暮らせる村
- ・交通不便による離村を防ぐ

【担当者の自己評価等】

A A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組み組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・未計測である。
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷

【数値目標】 現在人口1,700人を維持

【戦略/計画上の目的】

- ・地域福祉施策の充実化を図る。村民のニーズと利用状況を勘案して村民が移動しやすい各種移動支援サービスを行う。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「移動支援サービスに満足している」人の割合(%)
現状不明⇒H31年 50.0

【対象】 村民

【担当】 村民健康福祉係

【委員の事業評価】

A

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・4名
- B 成果が期待できる・・・4名
- C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 適宜路線の見直しや運航方法の見直しなど、改善できる枠組みがあるとよいと思います。

【新たなKPIの候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・7名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- 交通弱者への配慮が必要であるため、利便性を下げることは難しいが行政負担も踏まえるべきであろう。したがって、収支率の目標が必要ではないか。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 3 子どもから高齢者まで心身共に安心して生活できる環境の整備

戦略7 地域福祉の充実(移動支援サービスの充実)

② 高齢者等交通弱者が公共バスを利用する際の支援

担当者ヒアリングより ※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・身内に車の無い人もおり、診療や買い物の足を確保する必要がある。
- ・村外への用件は、高山方面と富山方面(北陸新幹線)がある。

【計画】やろうとしたこと

- ・村民のニーズと利用状況を勘案して村民が移動しやすい各種移動支援サービスを運行する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・濃飛バス乗車料の補助(往復4,600円に対して2,055円約45%を事業者に支払)

【結果】できたこと

- ・濃飛バス乗車料の補助により、村民が割引料金で乗車できる。
※バスターミナルで受付時に村民確認

【初期成果】生じた価値や変化

- ・身支度を要する(気の張る)外出機会増加
- ・村内に無い施設等に行ける

今後ほしい成果

- ・多様な村民の利用
- ・活用方法の周知

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・生き生きと暮らせる村
- ・車が無くても(やめても)暮らせる村
- ・交通不便による離村を防ぐ

【担当者の自己評価等】

B

- A(戦略として非常に効果があった)
- B(戦略として効果があった)
- C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・未計測である。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷

【数値目標】 現在人口1,700人を維持

【戦略/計画上の目的】

- ・地域福祉施策の充実化を図る。村民のニーズと利用状況を勘案して村民が移動しやすい各種移動支援サービスを運行する。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「移動支援サービスに満足している」人の割合(%)
現状不明⇒H31年 50.0

【対象】 村民

【担当】 村民健康福祉係

【委員の事業評価】

B

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】 A 非常に成果が期待できる・1名
B 成果が期待できる・・・7名
C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

●それでも値段が高い。わかりにくい。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・各サービスの「実」利用者数(人)
- ・75歳以上人口に対する免許証の自主返納率(%)

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・8名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・0名

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 4 基幹産業(観光産業)の質の向上と安定化

戦略 8 観光客の誘致

①インバウンド観光に向けた環境整備(ホームページ、看板等の多国語化)

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- 観光動態調査によると、村には観光入込客が180万人(H28)ある一方で、1人あたりの観光消費額は岐阜県4,000円、飛騨地域6,000円、白川村2,000円となっている。
- 観光客対応のパンクやホスピタリティの低下が懸念され、観光産業のサービスの質的向上と共に、1人あたり観光消費額の増加が求められる。
- 外国人観光客が増加している一方、ホームページの観光消費につなげる部分は、一部しか英語に対応していなかった。

【計画】やろうとしたこと

- 増加している外国人観光客への案内体制を整備するため、ホームページや看板、パンフレット・冊子を製作するなど、基本的な情報提供ができる環境を整備する

【事業内容(手段)】やったこと

- 案内看板の多言語化
- ホームページの英語化
- 外国人から見た実態調査
- 通訳案内士の育成

【結果】できたこと

- ピクトグラム(絵で示す視覚記号)や英語を用いた案内看板をH28年4月に設置
- ホームページ全体の英語化(H29は中国語を追加予定)
- 大学の協力を得て外国人から見た英語対応を調査反映した
- H27年に通訳案内士養成講座を飛騨広域で取り組み、1名が免許を取得した

【初期成果】生じた価値や変化

- 外国人観光客の利便性向上
- 案内看板による世界遺産集落内の混乱回避

今後ほしい成果

- 1人あたり観光消費額の増加
- 外国人観光客のマナー向上

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- 観光産業の質向上(観光客数の平準化や、滞在時間や消費額の増大)

【担当者の自己評価等】

B

- A(戦略として非常に効果があった)
- B(戦略として効果があった)
- C(効果がなかった)

- 検証コメントを参考にしたい
- 新たなKPIを参考に組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口1,700人を維持
- 【戦略/計画上の目的】

- 【対象】 外国人観光客
- 【担当】 商工観光係

・「白川村観光基本計画」の策定を契機として、外国人観光客誘致に向けての環境整備や、観光客数を平準化し、且つ、新たな観光客の誘致を可能とする。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・村の観光客入込数(万人) H27年150⇒H31年170
- ・外国人観光客入込数(万人) H26年21⇒H31年30

【委員の事業評価】

A

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・4名
- B 成果が期待できる・・・4名
- C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- インバウンドなど、あえて4事業に分けてやっていく必要があるのか(疑問)。観光行政の中で、一括でやってもらった方が良いのではないか。
- 白川村らしさを重視し、もっと出していく必要がある。HPや看板に手を加えたら良い。
- 観光消費額の増大は、期待したい。
- マーケティング専門者の採用を検討してはどうでしょうか。

【ヒアリングを踏まえたKPIの候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・1人あたり観光消費額の増加(円/人)
- ・外国人観光客による観光の満足度(%)
- ・観光基本計画の各項目の進捗/達成率

【新たなKPIの候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・8名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- 観光消費額の増大は、期待したい。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 4 基幹産業(観光産業)の質の向上と安定化

戦略 8 観光客の誘致

②広域観光による国内誘客促進と周遊ルートの推進

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・観光動態調査によると、村には観光入込客が180万人(H28)ある一方で、1人あたりの観光消費額は岐阜県4,000円、飛騨地域6,000円、白川村2,000円である。
- ・観光客対応のパンクやホスピタリティの低下が懸念され、観光産業のサービスの質的向上と共に、1人あたり観光消費額の増加が求められる。
- ・H27年に北陸新幹線が開業。

【計画】やろうとしたこと

- ・北陸新幹線開業に伴い、飛騨地域の周遊観光の利便性を向上させることにより、観光客が様々な観光資源に触れる機会を創出し、滞在時間の長期化を促す。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・広域連携を目的とした複数の協議会に参画し、周遊観光の検討と促進に取り組んだ。

【結果】できたこと

- ・広域連携の協議会等において、広域的な観光連携による相乗効果を狙った、周遊滞在型観光の検討と促進に取り組んだ。
- ・北陸飛騨3つ星街道
- ・杉原千畝ルート推進協議会
- ・昇龍道プロジェクト推進協議会
- ・飛騨地域観光協議会
- ・飛騨観光宣伝協議会
- ・日本政府観光局(JNTO)など

【初期成果】生じた価値や変化

- ・広域連携のつながり
- ・周遊ルートによる誘客

今後ほしい成果

- ・1人あたり観光消費額の増加
- ・滞在時間の長期化

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・観光産業の質向上(観光客数の平準化や、滞在時間や消費額の増大)

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果がなかった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

【課題】

できていないこと/理由

- ・広域連携による誘客は昼の客となり、朝夕の滞在が少ないのが課題である。
- ・滞在時間の増大に不可欠な、宿泊施設の収容人数が小さい。
- ・宿泊に限らない滞在時間の増大として、様々な観光資源の提案により、満足度や滞在時間に注力する必要がある。
- ・アニメツーリズムや白川村観光ふるさと大使の活用は、課題である。

資金や、担当者の負担状況

- ・広域周遊には高山市をはじめとする他自治体の方が積極的であり、既に来訪客の多い村として、大きな資源投入はしていない。担当者の負担は、広域連携全般で3割程度である。

できたら良いこと/理由

- ・北陸新幹線に関連して東京をターゲットにしてきたが、今後は大阪方面に展開できると良い。
- ・滞在時間増大につなぐ、宿泊可能数の増大。

【ヒアリングを踏まえたKPIの候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・宿泊者数の向上(人/年)
- ・1人あたり観光消費額の増加(円/人)
- ・観光基本計画の各項目の進捗/達成率

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口1,700人を維持
- 【戦略/計画上の目的】

- ・北陸新幹線開業に伴い、飛騨地域の周遊観光の利便性を向上させることにより、観光客が様々な観光資源に触れる機会を創出し、滞在時間の長期化を促す。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・村の観光客入込数(万人) H27年150⇒H31年170

- 【対象】 国内観光客
- 【担当】 商工観光係

【委員の事業評価】

A

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・3名
- B 成果が期待できる・・・4名
- C 成果が期待できない・・・1名

《産学金労言》

- インバウンドなど、あえて4事業に分けてやっていく必要があるのか(疑問)。観光行政の中で、一括でやってもらった方が良いのではないか。
- 受入れ体制の協議を
- 広報活動を精力的にやられることは白川村の潜在的な観光需要を押し上げる意味で重要だと考える。一方で、背景で述べている「観光客対応のパンク、ホスピタリティの低下」について対応する事業はないのでしょうか。それなしに観光客が増加するよう目標を立てるのは、評価の低下を招いたりしないでしょうか。
- 宿泊施設の充実は大切であり、国内観光客の数の確保が安定した観光収入につながる。
- 通過型にならないよう注意が必要。

【新たなKPIの候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・1名
- 他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- 供給側の増強を示す目標は立てられないのでしょうか。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 4 基幹産業(観光産業)の質の向上と安定化

戦略 8 観光客の誘致

③ 広域観光による海外誘客の推進

担当者ヒアリングより

※今後活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・H26年にフランスのコルマル国際観光展にてプロモーション(日本政府観光局協力)
- ・観光動態調査によると、村には観光入込客が180万人(H28)ある一方で、1人あたりの観光消費額は岐阜県4,000円、飛騨地域6,000円、白川村2,000円となっている。観光客対応のパンクやホスピタリティの低下が懸念され、観光産業のサービスの質的向上と共に、1人あたり観光消費額の増加が求められる。
- ・外国人観光客が増加している一方、ホームページの観光消費につなげる部分は、一部しか英語に対応していなかった。

【計画】やろうとしたこと

- ・飛騨地域として海外の国際旅行博への出展や首都圏プロモーションなどを、官民共同で実施し、海外での地場製品の販売促進と観光誘客を図る。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・ホームページの英語化
- ・海外誘客を目的とした複数の協議会等に参画し、PRに取り組んだ。

【結果】できたこと

- ・海外誘客を視野に入れた広域連携の協議会等において、広域的な観光連携による相乗効果を狙った、周遊滞在型観光の検討と促進に取り組んだ。
 - ・北陸飛騨3つ星街道(国内外)
 - ・杉原千畝ルート推進協議会(ユダヤ人)
 - ・昇龍道プロジェクト推進協議会(中国)

【初期成果】生じた価値や変化

- ・海外からの観光客の入込

今後ほしい成果

- ・文化への興味(知的好奇心や尊敬の念)を持つ観光客の増加
- ・1人あたり観光消費額の増加

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・観光産業の質向上(観光客数の平準化や、滞在時間や消費額の増大)

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった) B(戦略として効果があった) C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組みみたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口1,700人を維持
- 【戦略/計画上の目的】

- ・飛騨地域が海外の国際旅行博への出展や首都圏プロモーションなどを、官民共同で実施することにより、海外での地場製品の販売促進と観光誘客を図る。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・村の観光客入込数(万人) H27年150⇒H31年170
- ・外国人観光客入込数(万人) H26年21⇒H31年30

- 【対象】 海外からの観光客
- 【担当】 商工観光係

【委員の事業評価】

A Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・2名
- B 成果が期待できる・・・5名
- C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 宿泊客の増加を行わないと、消費単価の向上は無い。外国人を含めて連泊を希望する客が増えている。インバウンドなど、あえて4事業に分けてやっていく必要があるのか(疑問)。観光行政の中で、一括でやってもらった方が良いのではないか。
- 広報活動を精力的にやられることは白川村の潜在的な観光需要を押し上げる意味で重要だと考える。一方で、背景で述べている「観光客対応のパンク、ホスピタリティの低下」について対応する事業はないのでしょうか。それなしに観光客が増加するよう目標を立てるのは、評価の低下を招いたりしないでしょうか。
- 外国人観光客の対応は、不十分で満足度も低いと思う。クレジットカードが使えない等不親切である。
- 通過型にならないように注意が必要。

【ヒアリングを踏まえたKPIの候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・外国人観光客による観光の満足度(%)
- ・1人あたり観光消費額の増加(円/人)
- ・観光基本計画の各項目の進捗/達成率

【新たなKPIの候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・1名
- 他指標を提案・・・0名

《産学金労言》

- 供給側の増強を示す目標は立てられないものではないでしょうか。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 4 基幹産業(観光産業)の質の向上と安定化

戦略 9 観光産業の振興

① 観光事業評価やニーズ調査の実施による質の高い観光地の創造

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・人口ビジョンに関して、社会減少とりわけ**若者の流失が課題**となっている。若手がデータに基づき強みや弱みを踏まえて事業に取り組むことで、年配者からの信頼を得て活躍の場を確保していきたい。
- ・観光動態調査によると、村には観光入込客が180万人(H28)ある一方で、**1人あたりの観光消費額は岐阜県4,000円、飛騨地域6,000円、白川村2,000円**となっている。観光客対応のパンクやホスピタリティの低下が懸念され、観光産業のサービスの質的向上と共に、1人あたり観光消費額の増加が求められる。
- ・**戦略8「観光客の誘致」と関係/重複**する。

【計画】やろうとしたこと

- ・観光業の質の安定化を図るため、「(仮称)おもてなし研究組織」を立ち上げ、観光事業の問題や課題の調査を行い、官民一体となった課題解決策を見出す。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・観光動態調査の実施
- ・魅力ある観光地域づくり推進事業による「商品プロジェクト」や「担い手育成キャリア教育」

【結果】できたこと

- ・観光動態調査により、**1人あたりの観光消費額が小さい**ことなど、課題を把握した。
- ・「**商品プロジェクト**」としてストーリーメイクやコンセプトメイクを行った。
- ・「**担い手育成キャリア教育**」により、**中学生が観光マネジメント**に関するプランづくり等に取り組んだ。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・観光産業の課題状況の周知
- ・若手や中学生による観光産業の事業性認識

今後ほしい成果

- ・データやマーケティング手法を用いる事業の担い手増加
- ・1人あたり観光消費額の増加

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・マーケティングを踏まえて事業展開する担い手の増加
- ・観光産業の質向上(観光客数の平準化や、滞在時間や消費額の増大)

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組みみたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口1,700人を維持
 【戦略/計画上の目的】

【対象】 商工観光事業者、観光客
 【担当】 商工観光係

- ・行政、商工観光団体、事業者が一体となり、観光ニーズをマーケティングして受け入れ態勢の充実を図ると共に、もてなしの心を徹底して観光産業の振興を図る。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「世界遺産の保存と観光に満足している」との回答者(%)
H22年 32.5⇒H31年 50.0

【委員の事業評価】

A

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】 A 非常に成果が期待できる・3名
 B 成果が期待できる・・・4名
 C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

●インバウンドなど、あえて4事業に分けてやっていく必要があるのか(疑問)。観光行政の中で、一括でやってもらった方が良いのではないか。

【ヒアリングを踏まえたKPIの候補】

- 課題解決や成果状況を把握する目安
- ・**ニーズ調査等を活用、あるいは独自で行う事業者(軒)**
- ・**1人あたり観光消費額の増加(円/人)**
- ・**観光基本計画の各項目の進捗/達成率**

【新たなKPIの候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・6名
 条件付きで賛同・・・1名
 他指標を提案・・・0名

《産学金労言》

●事業費に対して、行っている内容や成果がわかりにくい。必要なことである。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向5 新産業の創出と新村民の受け入れ体制の整備

戦略 10 新産業の創出による雇用の促進

① 創業意欲のある人材への支援と創業しやすい環境の整備

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・職場を求めて流出した若者を呼び戻し、また、新村民を迎えるためにも、安定した雇用の場を確保する必要がある。
- ・新しい産業を創出する必要があるが、どういう産業であれば実現し、村に定着する可能性があるかが不明確であった。

【計画】やろうとしたこと

- ・村の知名度やポテンシャルを活かした新産業創出を図り、創業者を積極的に支援する

【事業内容(手段)】やったこと

- ・4月に他の各種補助制度と同時に、区長文書によって募集した。(審査会は副村長/全課長/教育委員会事務局長で構成し、10月実施)
- ・制度申請等の相談対応
- ・移住希望者には随時紹介している

【結果】できたこと

- ・H28年は申請1件/採択0件
- ・H27年は申請3件/採択3件
- ・H26年は申請5件/採択4件
- ※原則1件/年だが、村長が必要と認める場合は増加可能
- ※H28年に不採択となった移住者は、他施策の検討相談も同時に進行し、空き家の改修補助(2分の1補助上限300万円)を受けた。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・採択による新事業の創出(累計7件)
- ・総合的な相談による他施策活用

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・産業のすそ野がひろがる
- ・村で暮らす選択肢が増える(求人増加等)

今後ほしい成果

- ・起業支援制度の認知度と申請件数の増加
- ・副業的に事業を始める人材発掘の促進

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組み組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
【戦略/計画上の目的】

【対象】 新事業を検討する村民や組織

【担当】 産業振興係

- ・外部専門家などの意見を聞きながら新産業の創出を図り、産業になり得る事業の基盤づくりを進める。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「雇用・就業の場の確保に満足している」と回答した割合(%)
H22年 11.7⇒H31年 30.0
- ・起業する個人や団体への年間支援件数(件) H26年 3⇒H31年 3

【委員の事業評価】

A Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】 A 非常に成果が期待できる・2名
B 成果が期待できる・・・6名
C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 新産業の創出は、創業の補助金はあるが、計画の進捗などフォローを村と金融機関が一緒にやっていく必要があります。体制整備が必要だと思います。
- 少人数を対象にした事業で村民には理解しにくい。

《官》

- 起業資金の相談など銀行や商工会との協力体制も必要ではないか。

【新たなKPIの候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・7名
- 条件付きで賛同・・・1名
- 他指標を提案・・・0名

《産学金労言》

- 残存率は非常に重要だと思います。一定期間における残存率を踏まえて、審査基準等を見直す必要があると思います。
- 少人数を対象にした事業で村民には理解しにくい。

《官》

- 起業資金の相談など銀行や商工会との協力体制も必要では。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向5 新産業の創出と新村民の受け入れ体制の整備

戦略 10 新産業の創出による雇用の促進

② 第六次産業の育成支援

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】 そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- 多くの観光客が購入する土産品や飲食メニューには村外産物が多く、供給能力の面から「村で作り、村で売る」ことが困難な現状があった。
- そもそも村内には農地が少なく(114ha)、国の進める農地集積では10ha規模の好条件農地しか保全できない。つまり、兼業農家を離農させず農地保全する観点からも6次産業化(農業や水産業などの一次産業が加工・流通販売に業務展開)が期待される。
- 会社等に勤務しながら、儲けより楽しみ重視で農業する人がおり、他人の農地を引き受けることもある。

【計画】 やろうとしたこと

- 農林畜産業生産品の加工による特産品創出等に重点をおき、「村で作り、村で売る」を目標に、製品及びメニュー開発、生産ラインの整備、販路の確保に努め、新産業創出する。
- 白川郷産品 / ブランド認定制度と、ブランド開発支援事業

【事業内容(手段)】 やったこと

- 白川郷産品の認定
- 相談やコーディネート(高収益作物をはじめとする提案、産品に関する情報提供、ブランド開発に関する起業相談など)
- ふるさと納税の返礼内容の検討

【結果】 できたこと

- 相談や提案から、認定農業者に加工用の**機械化支援**、国の六次化支援、東海農政局の補助(**新規需要米**など)やPRのコーディネートを行った。H27、H28年に**3件を継続支援**
- 加工業者と村内農家をつなぐコーディネート
- 白川郷産品**認定シール**やパッケージ、商品案内導入による**村内産の差別化**(累計43品)
- 白川郷ブランド制度の構築
- ふるさと納税の返礼品としての産品活用

【初期成果】 生じた価値や変化

- 販売と加工により、**土産代金の村内還流**を促進
- 加工による生産者の事業性向上
- 農業者の**所得向上**

【長期成果】 将来的にねらいたいこと

- 産業のすそ野をひろげる
- 村の農地を保全する
- 農を軸にした複合的な生業づくり

今後ほしい成果

- 副業的な事業開始の促進により、**劣条件でも継承する農家の増加**や農地オーナー制度等の仕組み
- 産品等の**認定制度の周知**

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果がなかった)

- 検証コメントを参考にしたい
- 新たな KPI を参考に組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・未計測である。
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
【戦略 / 計画上の目的】

- 外部専門家などの意見を聞きながら新産業の創出を図り、産業になり得る事業の基盤づくりを進める。

【KPI(重要業績評価指標)】

- 「雇用・就業の場の確保に満足している」と回答した割合(%)
H22年 11.7⇒H31年 30.0
- 起業する個人や団体への年間支援件数(件) H26年 3⇒H31年 3

【課題】

できていないこと / 理由

- 支援先の**経営体力強化**が課題である。
- 6次化の**支援先から手が離しにくい**。
- 産品等の認定制度は、**村民が仕組みや意義への理解を深めることが課題**である。

資金や、担当者の負担状況

- 産品認定制度へは産品市開催とパンフレット提供を行っており、販促支援に注力したいが、人手が足りていない。

できたら良いこと / 理由

- 経営基盤強化の1方策**として、6次化の新たな取り組みを導入支援する。
- Uターン等の新規就農者を支援する。
- 楽しみながら取り組む事業**を大切にする(平瀬ワイン部など)。
- 限られた農地での2毛作や、畜産加工による飼料米需要増等、戦略的な供給増大の支援。
- ジビエや林業との連携促進。
- 高収益作物として薬草や麻(合掌用実績あり)の栽培提案。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- 支援対象事業の数と残存率(件、%)
- 支援先の該当事業の売上規模と利益率(円、%)
- 産品認定の数と残存率(件、%)
- 産品認定商品の取り扱い店舗数(軒)

【対象】 農林畜産 / 加工等、新事業を検討する村民や組織

【担当】 農林係、産業振興係

【委員の事業評価】

B Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・1名
- B 成果が期待できる・・・7名
- C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 6次産業に意欲を持っている人がいないとやっていけない。金融機関も事業計画無しに融資もできない。戦略の前、先に必要な段階があるのではないかと。
- 「産物を加工して売る」6次産業について、民宿では宿泊代や食事代として売っている。これは6次ではないのか?との思いがある。民宿の農業は6次産業扱いにしてはどうか。産品をお金にすることを、6次産業と認められるものと認められないものの違いを是正できないものか。量をたくさん作れば、耕地が拡大する。
- 大いに力を入れてほしい。高齢者の農業支援も行い、農地活用と収入の安定、健康促進が期待できる。
- 退職された方は年金生活で、少しでも売れば生計に役立つ。会社としてやるのも手だが、とにかく土地を活用して少しでもお金にするよう、家に埋もれている人が潤って活躍する方法もある。そのため道の駅などの売場を用意し、「地元へ帰って農家でもやろうか」ということになるよう、農協を含めて力を入れている。他の農協でも農地の有効活用に取り組んでいる。観光以外で収入と健康面で生き甲斐がある生活ができるのではないかと。
- 新産業の創出は、創業の補助金はあるが、計画の進捗などフォローを村と金融機関が一緒にやっていく必要がある。

《官》

- 本当は(農業を)やりたくないが、仕方なくやっているところもある。もっと米作りが楽しくなるような政策があると良い。

【新たな KPI の候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・8名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・0名

《産学金労言》

- 6次産業、意欲を持っている人がどれくらいいるか。戦略の前、先に必要な段階があるのではないかと。
- 残存率は非常に重要だと思います。一定期間における残存率を踏まえて、審査基準等を見直す必要があると思います。

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向5 新産業の創出と新村民の受け入れ体制の整備

戦略 11 多様な誘致活動の促進

① 企業誘致活動の推進と新村民受け入れ体制の整備

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・ 職場を求めて若者が村外へ流出するなか、呼び戻し(Uターン)や、新村民を迎える(Iターン)にあたり、安定した雇用の場が欲しい。
- ・ 産業課時代の「産業振興プロジェクトチーム」が、企業誘致の必要性と、宿泊施設 / 漬物製造 / 養豚場などの候補を示した。

【計画】やろうとしたこと

- ・ 誘致は現村長のマニフェスト事項であり、実現に向けて、2016年4月より企業誘致対策課が発足した。
- ・ 企業や工場、教育施設、高齢者福祉施設など、雇用の場につながる誘致活動を展開し、企業誘致に伴う新村民を受け入れるための住宅を整備するなどして、受け入れ態勢を整備する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・ 土地選定、地権者調整、補助事業の模索、事業展開上の行政手続きの調整などをコーディネートした。

【結果】できたこと

- ・ 世界遺産集落より北側に位置する地区に、ホテルの建設立地が進捗している
- ・ 養豚場が地域調整段階にある

【初期成果】生じた価値や変化

- ・ 新村民の発生(見込み)
- ・ 産業構造の変化(見込み)

今後ほしい成果

- ・ 増加する通勤者(昼間人口)に対するコミュニケーション計画
- ・ 新村民の受け皿となる住宅(用地)確保

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・ 地域産業のすそ野をひろげる
- ・ Uターンにつながる雇用の場づくり

【担当者の自己評価等】

- B** A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)
- ・ 検証コメントを参考にしたい

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略 / 計画上の目的】

【対象】 村内に事業所の立地を検討する企業等
 【担当】 企業誘致対策課

- ・ 将来性のある安定した企業や団体等に対する誘致活動を行う

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・ 村内の企業等の誘致件数(件) 2 (H31 年度)

【委員の事業評価】

A Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

【課題】

できていないこと / 理由

- ・ 現在着手案件の2つは着実に進んでいるが、新たな誘致が足踏みしている。
- ・ 現案件以後は「誘致」なのか「受け入れ」なのか、姿勢確認が必要。
- ・ 知名度があるため声は多くかかるが、「地域への根付き、雇用の問題、雪の問題」を乗り越える意思があるか、責任者(村長や副村長)との擦り合わせをする必要がある。
- ・ 村内では村外からの入居可能な住宅の不足が生じており、住宅の新設や用地提供施策が必要となる。
- ・ 企業立地は、村内の一部に偏ってしまう傾向にある。

資金や、担当者の負担状況

- ・ 誘致は現村長のマニフェスト事項であり、実現に向けて、2016年4月より企業誘致対策課が発足した。

できたら良いこと / 理由

- ・ 村外からの新規通勤者(昼間人口の増加)を、「地域への根付き、雇用の問題、雪の問題」を解決途上の移住候補者と捉え、その増大を前向きに捉える。
- ・ 企業の受け入れと連動して、住宅不足の解消施策を並行させる。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ 誘致事業所の従業者数(人)
- ・ 誘致事業所の従業者の村内居住比率(%)
- ・ 村内住宅供給の充足率 = 入居可能物件数 ÷ 誘致事業所の従業者数(%)

検証委員会より

【事業について】

A 非常に成果が期待できる・2名
 B 成果が期待できる・・・6名
 C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 受入れには村民住民の理解・協力が一番重要で、そのための下準備が大事である。
- 誘致活動には村内既存企業の人手不足が懸念されるため、対策が必要。

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・6名
 条件付きで賛同・・・2名
 他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- 受入れへの村民住民の理解、協力が必要である。
- 働き手の取り合いにならないか。住宅の不足も課題である。

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・未計測である。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向5 新産業の創出と新村民の受け入れ体制の整備

戦略 12 既存産業の強化

① 中小企業の活性化支援

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・ 村の工業は、採石を行う建設業、部品加工の製造業、山菜の加工業があるものの、零細規模の事業所である。特に建設業で廃業や撤退が多く、農林業や観光業への転換が必要である。
- ・ 建設業の衰退により、除雪や災害復旧、集落維持に必要な重機等が維持できなくなる懸念がある。
- ・ 村の商業は、観光客向けの飲食、宿泊、土産物販売が中心で、村内小売業の経営は厳しい半面、村民からは商店の不足改善が要望されている。
- ・ 戦略 12-②地域商品券の発行に関連して戦略化している。

【計画】やろうとしたこと

- ・ 中小企業への融資緩和など関連機関と協力して、中小企業への支援策を充実させる。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・ 自治体が民間金融機関に無利子で預託金を預け入れる「預託金方式」による、制度融資(利子補てん)
- ・ 商工観光関係団体への補助金

【結果】できたこと

- ・ 村が JA と八幡信金に 3,000 万円を預託し、1 事業者に制度融資が行われた(運転資金として)
- ・ 中小企業の活性化を目的とした商工会への補助金(毎年増減なしで維持)
- ・ 観光協会のホームページ英語化事業への支出。
- ・ 小規模企業振興条例制定(H29.3)
- ・ 起業支援補助、ブランド開発支援
- ・ おもてなし国際化

【初期成果】生じた価値や変化

- ・ 中小企業の経営への貢献

今後ほしい成果

- ・ 既存産業を強化する事業への活用

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・ 安定して雇用が確保できる産業構造

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった) B(戦略として効果があった) C(効果が無かった)

- ・ 検証コメントを参考にしたい
- ・ 新たな KPI を参考に組みたい

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略 / 計画上の目的】

【対象】 中小企業、個人事業主、商工観光団体
 【担当】 商工観光係、産業振興係

- ・ 工業について、第一次産業との連携や他産業への転換を支援して、雇用問題の解消に努める。商業について、村民や観光客に魅力的な販売体制を検討する。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・ 村民の「商工業の振興に満足している」回答者の割合(%)
H22 年 15.5⇒H31 年 30.0

【委員の事業評価】

B Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

【課題】

できていないこと / 理由

- ・ あまり利用されていない。
- ・ 預託金のコストとして、機会費用が発生する。制度融資の利用実績が予算に届かないケースでは、機会費用の一部が取り扱い金融機関に対する補助として機能する。

資金や、担当者の負担状況

- ・ 特に無し

できたら良いこと / 理由

- ・ 特に無し

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・2名
- B 成果が期待できる・・・4名
- C 成果が期待できない・・・2名

《産学金労言》

- 利用者が少ない理由を明らかにする必要があるのではないか。意欲的に経営拡大を目指す経営者のニーズは融資に帰着するのか。
- 制度の周知が必要
- 商工会との連携した取り組みが必要である。事業者と親しいし、経営指導員がいる。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ 制度融資の預託金総額に対する融資総額の比率(%)

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・0名

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・利用が低調であり、ニーズは高くない。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	・制度融資が唯一の方法ではない
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向5 新産業の創出と新村民の受け入れ体制の整備

戦略 12 既存産業の強化

②地域商品券の発行による消費喚起促進

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・ 道路交通網の整備に伴って村民の消費行動は多様化、且つ、広域化している。
- ・ 村の商業は、観光客向けの飲食、宿泊、土産物販売が中心で、**村内小売業の経営は厳しい**半面、村民からは商店の不足改善が要望されている。

【計画】やろうとしたこと

- ・ 村民の村内での購買意欲向上策として地域商品券を発行し、村の中小企業活性化を支援する。また、地域商品券発行による効果を検証する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・ 地域商品券「白川村とくとく商品券」の発行
- ・ アンケート調査の実施

【結果】できたこと

- ・ 商工会加盟店全店にて使用できる商品券を発行した。
 - ・ 県資金にて H25 年度(1,500 冊 × 12,000 円 = 1,800 万円、冬発行)
 - ・ 一般会計で H26 年度(1,750 冊 × 12,000 円 = 2,100 万円、秋発行)
 - ・ 国資金にて H27 年度(2,000 冊 × 12,000 円 = 2,400 万円、夏発行)
- ※発行季節を変えたり、おつりが出ないと村民意見から、額面の小さい券を盛り込む等の工夫をした。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・ 地域商品券による中小企業、商店経営での購買 (H27 年、168 店舗中 48 店舗にて利用)

今後ほしい成果

- ・ 新たな村内消費の増大による既存産業強化
- ・ 経済効果の地域内循環

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・ 安定して雇用が確保できる産業構造

【担当者の自己評価等】

- B**
- A(戦略として非常に効果があった)
 - B(戦略として効果があった)
 - C(効果が無かった)

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略 / 計画上の目的】

【対象】 中小企業、個人事業主、商工観光団体
 【担当】 産業振興係

- ・ 工業について、第一次産業との連携や他産業への転換を支援して、雇用問題の解消に努める。商業について、村民や観光客に魅力的な販売体制を検討する。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・ 年間消費喚起額(円 / 年) H26 年 2100 ⇒ H31 年 2250
- ・ 商工業の振興に満足している村民の割合(%) H22 年 15.5 ⇒ H31 年 30.0

【委員の事業評価】

C

B を基準に A を加点 1、C を減点 1 として、委員回答の合計が 2 点以上なら A、-2 点以下なら C、それ以外を B とした相対評価。

【課題】

できていないこと / 理由

- ・ 元々使う**ガソリンや灯油などの燃料や JA の購買**に用途が偏り、**村外への経済波及**が見られた。
- ・ **メリットより手間が大きい。**
- ・ 土産店や飲食店では PR されず、商品券は売上向上のあてにされていない。

資金や、担当者の負担状況

- ・ 以前は、**商工会の調整や、問い合わせ対応**などで業務が多かった。
- ・ 特に H27 年度は、**アンケート回収や、国の会計確認**の対応に時間がかかった。

できたら良いこと / 理由

- ・ H28 年度は**継続しなかった。**

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ 特に無し

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・1 名
- B 成果が期待できる・・・3 名
- C 成果が期待できない・・・3 名

【新たな KPI の候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・3 名
- 条件付きで賛同・・・2 名
- 他指標を提案・・・0 名

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向5 新産業の創出と新村民の受け入れ体制の整備

戦略13 新村民受け入れ体制の整備

① 一時滞在施設の整備と移住体験プログラムの提供

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】 そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・ 道路交通網の改善により、近隣都市までの通勤が可能となった。
- ・ 村内に職場を確保することにより、若者の村外流出を防ぐと共に、これを目的とするU・Iターン者を呼び込める可能性がある。
- ・ 都市部で定年を迎えた方が、農山村へ移住するケースが増えている。
- ・ 移住希望者のための村民生活体験プログラムを整備すると共に、積極的な情報発信を行い、村の魅力を伝えていく必要がある。
- ・ 空き家活用の選択肢として、リノベーション(改修工事を行い、用途や機能を変更して性能を向上させたり付加価値を与える)が一般化しつつある。

【計画】 やろうとしたこと

- ・ 移住等希望者に、村での生活を体験してもらうための体験プログラムを整備し、体験期間中に使用する一時滞在施設(シェアハウス等)の確保と整備を進める。また、農業希望者には農地付の滞在施設と体験プログラムを提供し、新規就農者を確保する。**移住交流促進事業。**

【事業内容(手段)】 やったこと

- ・ **空き家をシェアハウスにリノベーション**
- ・ リノベーションの**取り組みを参加型ワークショップ(WS)**として開催

【結果】 できたこと

- ・ **定員5名のシェアハウス**ができた。(1ヵ月から2年)
- ・ シェアハウスの整備 **WSに延べ237名**が参加
- ・ 白川村ナイトや「空き家ナイト」等によるリノベーションWSのプロモーション
 - ※ゲストハウスに泊まりながらシェアハウスをつくり、さらにシェアハウスに**住みながら次の滞在施設をつくる**継続的モデルの実践
 - ※滞在中に**近隣住民と接すること**により、山菜とりや釣り、飲み会が自然発生した

【初期成果】 生じた価値や変化

- ・ **入居者が村内移住した(5人中3人)**
- ・ 移住等検討者と、**村民や生活の魅力との接点増加**
- ・ **交流人口の増加(WSによる)**
- ・ **元地域おこし協力隊員による事業化**

【長期成果】 将来的にねらいたいこと

- ・ 移住相談者や**移住者の増加**
- ・ 「**合掌造り**」に依存しない**交流人口の増加**

今後ほしい成果

- ・ 移住相談件数の増加
- ・ 「合掌造り」以外の魅力を知る人の増加
- ・ **物件不足の解消**による移住促進策の補完

【担当者の自己評価等】

A

A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・ 検証コメントを参考にしたい
- ・ 新たなKPIを参考に組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略/計画上の目的】

【対象】 移住等検討者(村の出身者含む)
 【担当】 産業振興係

- ・ 新村民が魅力を感じる受け入れ体制を整備し、積極的な広報活動を実施する

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・ 移住者数(人) H26年 6⇒H31年 60
- ・ 移住相談件数(件) H26年 18⇒H31年 60
- ・ 地域おこし協力隊の定住率(%) H31年 50

【課題】

できていないこと/理由

- ・ リノベーションや**賃貸が可能な空き家の確保が困難**。1,700 人を維持するための**社会増に不可欠な、賃貸可能住宅供給量の確保**(いきなり土地と家を買えない/売れない)が課題。
- ・ ライター担当などの仲間づくり。
- ・ 施設の量は増えにくい、本事業の**活用と発展を地域の担い手(元協力隊員)が進める段階**に入っている。

資金や、担当者の負担状況

- ・ 主に地域おこし協力隊が担い、隊員設立の法人が担い手として連携している。
- ・ 担当者は地域おこし協力隊の活動フォローや調整を担う。

できたら良いこと/理由

- ・ **ファミリー向け一棟貸し**の一時滞在施設新設
- ・ 村営住宅を視野に入れた**住宅不足の解消**
- ・ 事業を進めていく**仲間の確保(白川郷ヒト大学など)**

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ **一時滞在施設からの村内移住の数(人)**
- ・ 「**合掌造り**」以外の**来訪目的による交流人口(移住交流促進事業全般)**(人)

【委員の事業評価】

A

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・4名
- B 成果が期待できる・・・4名
- C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 一時滞在者のワーキングホリデー体験を有料で行ってはどうか。白川の職場は、企業も家族経営の民宿も労働力が足りていないので、白川を知りたい人が観光的な滞在ではなく、有償でパートをしながら村民の気質や観光の現状を知ることができれば良いのではないか。労働力不足を解決できるのではないか。
- 村内全域に広げると良い。
- 移住者の増加は、必要でありこの方法はいいことである。
- 住民から聞いた意見だが、休耕田等の土地再利用をしてはどうか。

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・2名
- 他指標を提案・・・1名

《官》

- **合掌造り以外**というよりは、移住交流促進事業全般の数値のみで良いのでは。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向5 新産業の創出と新村民の受け入れ体制の整備

戦略13 新村民受け入れ体制の整備

② 空き家を活用した住宅提供など新村民の受け入れ体制の整備

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・ 道路交通網の改善により、近隣都市までの通勤が可能となった。
- ・ 村内に職場を確保することにより、若者の村外流出を防ぐと共に、これを目的とするU・Iターン者呼び込める可能性がある。
- ・ 都市部で定年を迎えた方が、農山村へ移住するケースが増えている。
- ・ 移住希望者のための村民生活体験プログラムを整備すると共に、積極的な情報発信を行い、村の魅力を伝えていく必要がある。
- ・ 空き家活用の選択肢として、リノベーション(改修工事を行い、用途や機能を変更して性能を向上させたり付加価値を与える)が一般化しつつある。
- ・ **税制優遇はどこの自治体もやっている**ので魅力とはなりにくい。

【計画】やろうとしたこと

- ・ 空き家を活用した住宅提供、移住コンシェルジュの設置、各種費用助成、税制の優遇など、新村民が魅力を感じる個性ある受け入れ体制を整備する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・ どこにでもある優遇策に加えて、**移住コンシェルジュによるコーディネート**を導入

【結果】できたこと

- ・ 相談 30 件以上(直近 H28 年の半期にて)
- ・ 移住 3 ~ 4 組
- ※ 村内に無い不動産事業者の機能補完
- ※ 第一印象に大きく影響される移住検討において、対応の親切さが安心感につながっている。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・ 相談者の**村内移住**

今後ほしい成果

- ・ **紹介可能物件**の増加
- ・ **住民による物件不足**の認識
- ・ 地域おこし**協力隊員**による**事業化**

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・ **定住人口**の確保
- ・ **移住者**(Iターン)の増加

【担当者の自己評価等】

A A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果が無かった)

- ・ 検証コメントを参考にしたい
- ・ 新たな KPI を参考に組み組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略/計画上の目的】

- ・ 新村民が魅力を感じる受け入れ体制を整備し、積極的な広報活動を実施する

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・ 移住者数(人) H26 年 6⇒H31 年 60
- ・ 移住相談件数(件) H26 年 18⇒H31 年 60
- ・ 地域おこし協力隊の定住率(%) H31 年 50

【対象】 移住等検討者(村の出身者含む)
 【担当】 産業振興係

【委員の事業評価】

A Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】 A 非常に成果が期待できる・3名
 B 成果が期待できる・・・5名
 C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

● 空き家利用は、物件確保体制の整備が必要である。

《官》

● 協力隊の活動として行なわれているようだが、継続して行く調整がなされているのか。

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・7名
 条件付きで賛同・・・0名
 他指標を提案・・・0名

《官》

● 現在の「やったこと：コーディネートの導入」が新しい KPI 案「物件のストック」と整合していない。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

戦略 13 新村民受け入れ体制の整備

③ 都市部移住希望者に向けた交流イベントの開催

担当者ヒアリングより ※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
【戦略 / 計画上の目的】

【対象】 移住等検討者(村の出身者含む)
【担当】 産業振興係

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・移住者数(人) H26年 6⇒H31年 60
・移住相談件数(件) H26年 18⇒H31年 60

【委員の事業評価】

B
Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【背景】 そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・ 道路交通網の改善により、近隣都市までの通勤が可能となった。
- ・ 村内に職場を確保することにより、若者の村外流出を防ぐと共に、これを目的とするU・Iターン者を呼び込める可能性がある。
- ・ 都市部で定年を迎えた方が、農山村へ移住するケースが増えている。
- ・ 移住希望者のための村民生活体験プログラムを整備すると共に、積極的な情報発信を行い、村の魅力を伝えていく必要がある。

【計画】 やろうとしたこと

- ・ 都市部での移住交流イベントや定期的なイベント開催、視察希望者の積極的な受け入れなど、移住者増加策を検討実施する。

【事業内容(手段)】 やったこと

- ・ 交流イベント「白川村ナイト」を開催し、村の食や酒、人や文化など旬のものを紹介した。

【結果】 できたこと

- ・ 東京で実施(事前に多数参加表明あり)
- ・ 名古屋で実施(当日に人が集まった)
- ・ 金沢で実施(参加1名)
- ・ 参加型のリノベーションワークショップの紹介など

【初期成果】 生じた価値や変化

- ・ イベントを契機とした都市部からの来訪 (H27年はイベント参加157名のうち31名、東京からが多い)

今後ほしい成果

- ・ 他の移住促進施策に関する相談増加(起業や空き家を対象とするプログラムなど)

【長期成果】 将来的にねらいたいこと

- ・ 移住相談者や移住者の増加

【担当者の自己評価等】

B
A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・ 検証コメントを参考にしたい
- ・ 新たな KPI を参考に組み組みたい

【課題】

できていないこと / 理由

- ・ 戦略 13-④「飛騨地域における官民共同による移住促進」と重複する。

資金や、担当者の負担状況

- ・ 労力は当日のみであり、地域おこし協力隊のメンバーと共に実施しているが、実施対応できる人員は限られている。
- ・ H29年度は発信力を高めるため、プロを投入する予定。

できたら良いこと / 理由

- ・ H29年度は関西方面にシフトする
- ・ 発信することで目に触れる(webサイト等)

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ イベントページや SNS のリーチ数(人)
- ・ イベント参加者(人)
- ・ イベントを契機とした都市部からの来訪者(人)

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・1名
- B 成果が期待できる・・・5名
- C 成果が期待できない・・・1名

《産学金労言》

- 東京以外は参加人数が少ないようだ。戦略 13-④と重複しているため、積極的に単独でイベントを実施する必要性は大きくないのではないか。
- 定期的開催を希望します。

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・5名
- 条件付きで賛同・・・1名
- 他指標を提案・・・0名

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向5 新産業の創出と新村民の受け入れ体制の整備

戦略 13 新村民受け入れ体制の整備

④ 飛騨地域における官民共同による移住促進

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・道路交通網の改善により、近隣都市までの通勤が可能となった。
- ・村内に職場を確保することにより、若者の村外流出を防ぐと共に、これを目的とするU・Iターン者を呼び込める可能性がある。
- ・都市部で定年を迎えた方が、農山村へ移住するケースが増えている。
- ・地方創生の交付金を高山市主導で獲得し、交流人口や定住人口の増加を図るため「飛騨地域創生連携協議会」として事業を開始した。
- ・飛騨地域として都市部からの移住促進の取り組みを開始することになったが、**村では先行して戦略13-③で交流イベント「白川村ナイト」を開催してきた。**

【計画】やろうとしたこと

- ・都市部での移住交流イベントや定期的なイベント開催、視察希望者の積極的な受け入れなど、移住者増加策を検討実施する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・飛騨市、高山市、下呂市、岐阜県と連携して、首都圏で移住促進のプロモーション活動「HIDA-Drinks in TOKYO」を行った。
- ・就業体験を伴う短期インターン

【結果】できたこと

- ・HIDA-Drinks 東京で3回実施(4回予定)
- ・HIDA-Drinks 飛騨で2回実施
 - ※参加者数は40～50名/回
 - ※東京のうち1回はセミナーで、「2泊インターン」の受け入れ自治体が担当
- ・「道の駅」駅長の右腕就業体験を2泊で実施。2組が参加

【初期成果】生じた価値や変化

- ・イベントを契機とした都市部からの**来訪**(H28年参加者約280名の内、来訪者数不明)
- ・就業体験による移住検討の促進

今後ほしい成果

- ・他の移住促進施策に関する**相談増加**(起業や空き家対象のプログラム)
- ・村内施設(道の駅)の**機能や売上の向上**

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・移住相談者や**移住者の増加**

【担当者の自己評価等】

B

- A(戦略として非常に効果があった)
- B(戦略として効果があった)
- C(効果がなかった)

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
- 【戦略/計画上の目的】

- 【対象】 移住等検討者(村の出身者含む)
- 【担当】 産業振興係

- ・新村民が魅力を感じる受け入れ体制を整備し、積極的な広報活動を実施する

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・移住者数(人) H26年6⇒H31年60
- ・移住相談件数(件) H26年18⇒H31年60

【委員の事業評価】

B

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

- 【事業について】
 - A 非常に成果が期待できる・2名
 - B 成果が期待できる・・・4名
 - C 成果が期待できない・・・1名

《産学金労言》

- こちらにプロを導入されてはどうか。他地域との差別化が図られるような工夫があれば、「アピールとして薄まる」との危惧は不要ではないか。

《官》

- 受入体制(住まい、仕事等)の充実が必要。
- イベントの必要性や身の丈にあったイベントのあり方の検討が必要では。

【課題】

できていないこと/理由

- ・4つの区域なので**アピールとしては薄まる。**

資金や、担当者の負担状況

- ・首都圏対象の取り組みを、村単独でなく飛騨地域として実施できるので、**負担が軽くなった。資金的にも重くない。**
- ・協議会のメンバーや受託事業者の「美ら地球」など、(パートナーは)取り組みにポジティブである。

できたら良いこと/理由

- ・道の駅の機能や売り上げを向上させるための**人材獲得。**

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・イベントページやSNSの**リーチ数(人)**
- ・イベントとインターンの**参加者(人)**
- ・イベントを契機とした都市部からの**来訪者(人)**

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・1名
- 他指標を提案・・・0名

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・事業のKPIを設定しておらず、関係の相談件数未把握
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

戦略 14 定住化の促進

① U I J ターンにより地元や近隣に就労した若者への支援

担当者ヒアリングより ※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・高校進学と共に村を離れるのが通例であったが、近年は道路交通網の改善により、近隣都市までの通学が可能となった。
- ・村内に居住しながら通勤する負担を軽減することで、就業のための若者の村外流出を防ぎたい。

【計画】やろうとしたこと

- ・U I J ターンにより地元や近隣に就労した若者への通勤費助成や、就業相談・体験等支援策を検討し、若者の地元定住を促進する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・白川村若者等通勤就職者助成金として、U I J ターンに限らず、村内に住民票があり、**40歳未満で社会通念上月の就業すべき日数を車や公共交通によって通勤する者**に月額2万円を支給(片道40km以上走行、または高速道路を利用)。

【結果】できたこと

- ・**自動車通勤している若者**で、富山県内や高山市への通勤者に交付している。
※4~11月分を12月、12~3月を4月に支給
- ・H26年9件222万円。H27年13件298万円。H28年12件=225万円。
※途中退職者あり
- ・移住検討者に紹介(戦略13交流イベントなどにて)

【初期成果】生じた価値や変化

- ・在住する若者の**通勤負担軽減**

今後ほしい成果

- ・**転出の抑止**

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・地元**定住**

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・**新たな KPI を参考に組み組みたい**

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・周知はできているが、ニーズがKPIほど大きくない
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
【戦略 / 計画上の目的】

【対象】 村民(若者)
【担当】 産業振興係

- ・若者からお年寄りまで、すべての村民が生涯を通して、安心して暮らすことのできる環境づくりについて検討し、対策を講じる。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・転出人口(人) H27年 61.4⇒H31年 60
- ・若者定住支援人数(人) H26年 11⇒H31年 15

【委員の事業評価】

B Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】 A 非常に成果が期待できる・2名
B 成果が期待できる・・・5名
C 成果が期待できない・・・1名

《産学金労言》

- 対象者が少ないなら、要件を緩和してはどうか。Uターンだけにして、I、Jターンには別の支援策にしてはどうか。

【課題】

できていないこと / 理由

- ・**対象者が少ない**。(若者要件をはずそうとした程)
- ・年度初めに区長文書にて周知しており、口コミもあるため、**これ以上知らせる余地はない**と考えられる。
- ・経路や通勤実態のチェックは無い。

資金や、担当者の負担状況

- ・それほど業務負担はない。
- ・総額300万円程度、資金は過疎債と一般財源を組み合わせている。

できたら良いこと / 理由

- ・特に無し

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・**イベントページや SNS のリーチ数(人)**
- ・**イベントとインターンの参加者(人)**
- ・**イベントを契機とした都市部からの来訪者(人)**

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・5名
条件付きで賛同・・・0名
他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- 対象者が少ないなら、要件を緩和してはどうか。Uターンだけにして、I、Jターンには別の支援策にしてはどうか。

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 6 子育て環境と教育環境の充実

戦略 15 少子化対策の実施と子育て支援策の充実

① 結婚活動支援事業の充実(飛騨地域結婚支援事業)

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・「白川村子ども子育て支援事業計画(H27~31年度)」に基づいて、結婚祝い金の支給、妊婦健診費助成、保育園給食費無料化、3人目保育料無料化、中学生までの医療費助成など、村独自の経済的支援を行っている。
- ・村内に独身者が多く、出会いを支援し、結婚・出産といった村内での安定的な家族生活に発展させる結婚活動支援の必要性について、総合計画審議会でも多くの意見があった。

【計画】やろうとしたこと

- ・独身者の出会いを支援するための結婚活動支援事業を実施する。
- ・周辺市町村間で交流の場など、各種イベントを実施し、独身者の出会いの場を積極的に設ける。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・大手縁結びシステムへの登録会費負担
- ・婚活イベントの開催(H26~H28)
- ・縁結び団体「しらかわ縁結びとの会」の事務局

【結果】できたこと

- ・大手縁結びシステムへの登録会費を全額負担し、4~5名が利用
- ・1泊2日の婚活イベント「白川郷コン」をH26年1回、H27年2回、H28年1回の計4回開催した。※概ね村外女性と村内男性で実施。
- ・官民有志による「しらかわ縁結びとの会」の活動として、結婚相談日などの実施。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・結婚件数(H26年1件、27年1件)
- ・村外女性と白川村(村の男性含む)との接点増加

今後ほしい成果

- ・結婚の参考となる村外出身女性との接点

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・少子化の歯止め

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組みみたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
- 【戦略/計画上の目的】

- 【対象】 若手村民、村外女性
- 【担当】 村民健康福祉係

- ・「白川村子ども子育て支援事業計画」に基づいて事業を実施し、村の少子化に歯止めをかける

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・村の合計特殊出生率(%) H22年 1.44⇒H31年 2.06
- ・結婚支援事業による年間結婚件数(件)

【委員の事業評価】

B Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

- 【事業について】 A 非常に成果が期待できる・1名
B 成果が期待できる・・・5名
C 成果が期待できない・・・1名

《官》

- 村外へ嫁に出ていった方々の意見集約をしてはどうか。
- 結婚をすることの意義が薄れてきている気がする。

【課題】

できていないこと/理由

- ・婚活イベントでは「白川村に行ってみたかった」という村外女性参加者が複数あった。文化体験を盛り込むことにより関心度向上や村の生活への理解が期待される。
- ・村外から嫁いだ女性の話を聞く機会の提供。
- ・「しらかわ縁結びとの会」は村内出身者が多い。

資金や、担当者の負担状況

- ・「しらかわ縁結びとの会」の事務局を担っている。

できたら良いこと/理由

- ・カヤ刈りや結など、村の文化に接することができる婚活イベントなど、村の暮らしに前向きな印象を持つ村外女性との出会いの場づくり。
- ・村外から嫁ぐことのメリットやデメリットを、生の声で聴くことができる、村外から嫁いだ女性との接点を盛り込む。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・参加者同士の出会いの数(参加者数)(人)
- ・縁結び団体への村外出身女性の関与(人)

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・7名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・0名

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 6 子育て環境と教育環境の充実 戦略 15 少子化対策の実施と子育て支援策の充実

② 子育て世帯への介護負担を軽減

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・「白川村子ども子育て支援事業計画(H27~31年度)」に基づいて、結婚祝い金の支給、妊婦健診費助成、保育園給食費無料化、3人目保育料無料化、中学生までの医療費助成など、村独自の経済的支援を行っている。
- ・家庭における介護負担は大きく、子育て世帯では2重の負担が生じると考えられる。
- ・村内の介護施設は、ショートステイ(1~2週間)の定員が4名、**特別養護老人ホームは定員20名で満床**となっている。増床を検討中で、H32頃の実現する可能性がある。

【計画】やろうとしたこと

- ・子どもを育てながら介護も行っている世帯への身体的、経済的負担を軽減するための対策を検討する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・在宅介護手当(65歳以上の要介護3以上)の対象世帯で、同時に児童手当の対象である世帯に対して、5,000円/月を上乗せする。

【結果】できたこと

- ・在宅介護手当10,000円/月に上乗せした**15,000円/月を支給**した。支給は3か月ごとで、ケアマネージャーの確認がある。
- ・H28年の支給は1件あったが、年度途中で亡くなられた。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・経済的**負担を軽減**できた(H27年1件、28年1件)
- ・特別養護老人ホームに入れない / 入りたくない場合の選択肢を助ける

今後ほしい成果

- ・特に無し

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・介護負担を遠因とする少子化の抑制
- ・介護対象者の「家で暮らしたい」の実現

【担当者の自己評価等】

B

- A(戦略として非常に効果があった)
- B(戦略として効果があった)
- C(効果が無かった)

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口1,700人を維持
- 【戦略 / 計画上の目的】

- 【対象】 子育て世帯
- 【担当】 村民健康福祉係

- ・「白川村子ども子育て支援事業計画」に基づいて事業を実施し、村の少子化に歯止めをかける

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・村の合計特殊出生率(%) H22年1.44⇒H31年2.06
- ・結婚支援事業による年間結婚件数(件)

【委員の事業評価】

B

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

- 【事業について】 A 非常に成果が期待できる・2名
B 成果が期待できる・・・4名
C 成果が期待できない・・・1名

《産学金労言》

- 利用者、対象者が少ないので、あればいい制度だと思う。
- 素晴らしい活動であり、独身男性の積極的参加を期待したい。結婚願望のアドバイスをしてほしい。

【課題】

できていないこと / 理由

- ・在宅介護手当は、開始当初は5,000円/月であったが、H26年からは10,000円/月となっており、苦情や要望はない。

資金や、担当者の負担状況

- ・デイサービスなど介護分野の業務の一環であり、本事業の支給自体は大きな業務

できたら良いこと / 理由

- ・移住希望者に、介護施設の情報と同時に紹介していく。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・**該当者への制度利用の打診達成度(%)**

【新たな KPI の候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・1名
- 他指標を提案・・・0名

《産学金労言》

- 利用者の満足度

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・事業のKPIの設定が無い。
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 6 子育て環境と教育環境の充実
戦略 15 少子化対策の実施と子育て支援策の充実
③ 子育て世帯への支援(出産祝い金の創設)

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略 / 計画上の目的】

【対象】 子育て世帯
 【担当】 村民健康福祉係

・「白川村子ども子育て支援事業計画」に基づいて事業を実施し、村の少子化に歯止めをかける

担当者ヒアリングより ※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【KPI(重要業績評価指標)】

・村の合計特殊出生率(%) H22年 1.44⇒H31年 2.06

【委員の事業評価】

B
 Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

【背景】 そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・「白川村子ども子育て支援事業計画(H27~31年度)」に基づいて、結婚祝い金の支給、妊婦健診費助成、保育園給食費無料化、3人目保育料無料化、中学生までの医療費助成など、村独自の経済的支援を行っている。
- ・出産祝い金の支給は、他の多くの自治体で実施している施策である。

【計画】 やろうとしたこと

- ・子育て世帯の経済的負担を軽減するため、出産祝い金を支給し、出産費用の軽減などを支援する。

【事業内容(手段)】 やったこと

- ・ **第一子 10万円、第二子 10万円、第三子 50万円を支給**する、出産祝い金の支給制度を創設した。
- ・村の広報等を通じて、制度創設を周知した。

【結果】 できたこと

- ・支給制度を周知した。
- ・H27年 2件(各 10万円)を支給した。
- ・H28年 6件(各 10万円)を支給した。

【初期成果】 生じた価値や変化

- ・該当世帯による制度の認識
- ・子育て世帯の経済的**負担を軽減**できた(H27年 2件、28年 6件)

今後ほしい成果

- ・特に無し

【長期成果】 将来的にねらいたいこと

- ・子育て世帯にやさしい村

【担当者の自己評価等】

B
 A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果が無かった)

【課題】

できていないこと / 理由

- ・定住していない学校教員の世帯に出産があったが対象外となった。

資金や、担当者の負担状況

- ・ほとんど負担はない。

できたら良いこと / 理由

- ・必要なタイミングにならないと案内されないため、移住希望者には、通学補助などの教育支援などと共に示していく。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ **該当者への制度利用の打診達成度(%)**

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・1名
- B 成果が期待できる・・・6名
- C 成果が期待できない・・・1名

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・7名
- 条件付きで賛同・・・1名
- 他指標を提案・・・0名

《産学金労言》

●利用者の満足度

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・事業のKPIの設定が無い。
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 6 子育て環境と教育環境の充実

戦略 16 教育環境の整備

① 高次教育に係る負担の軽減

担当者ヒアリングより ※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
【戦略 / 計画上の目的】

【対象】 村民(子どもの居る世帯)、移住検討者
【担当】 学校教育係

【KPI(重要業績評価指標)】
・高次教育に対する環境の改善について検討し、負担を軽減する
・高次教育支援策に満足と回答する保護者の割合(%)
現状不明⇒H31 年 60

【委員の事業評価】
B
Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

【背景】 そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・高等学校について、多くの場合、寮などに入らなくては通学できなかったが、**高速道路の開通に伴い、村内からの通学が可能**となった。
- ・通学などの経済的理由で**高校に行けないのはもったいない**。
- ・大学生向け(年予算 30 万円の**小坂育英基金**)と**高校生向け(年予算 20 万円の村奨学資金給付金)**がある。いずれも、成績と所得の要件があり、1名以上に予算を配分する。配分は、中学校長と村長 / 副村長 / 教育長 / 民生委員長 / 議会産業委員長により検討する。

【計画】 やろうとしたこと

- ・高次教育に対する環境の改善について検討し、負担を軽減する。

【事業内容(手段)】 やったこと

- ・所得制限無しで、高校生の通学や下宿の支援として、**第三子以降あるいはひとり親世帯に、最高限度額月 1 万円(年 12 万円)**を給付する。
- ・成績と所得の条件を踏まえ、奨学金(最大年 20 万円)を給付する。

【結果】 できたこと

- ・13~14 名が通学の**負担軽減に活用**している。
- ・対象者となる世帯に、**他の施策である奨学金などを紹介**した。
- ・奨学金については、H28 年は特別な事情を勘案して、2 名に各 20 万を給付した。

【初期成果】 生じた価値や変化

- ・高等学校への**通学の負担軽減**(対象者のほぼ全員が制度を利用している)
- ・他の奨学金等の施策との接点
- ・高校進学断念の回避に貢献

今後ほしい成果

- ・移住検討者に対する支援策の周知

【長期成果】 将来的にねらいたいこと

- ・村の出身者が活躍する

【担当者の自己評価等】

B
A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たな KPI を参考に組みたい

【課題】

できていないこと / 理由

- ・村税および使用料等の**滞納があると対象外**となるため、負担軽減を必要とする世帯に提供できない可能性がある。

資金や、担当者の負担状況

- ・調整や説明、謝罪といった業務が生じており、担当者の負担は小さくない。

できたら良いこと / 理由

- ・特に無し

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・**該当者への制度利用の打診達成度(%)**

検証委員会より

【事業について】

A 非常に成果が期待できる・1名
B 成果が期待できる・・・6名
C 成果が期待できない・・・0名

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・5名
条件付きで賛同・・・0名
他指標を提案・・・0名

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	○
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	○

・対象者の利用率は高く、要望や不満は無いが、未計測である。

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 6 子育て環境と教育環境の充実

戦略 17 教育体制の充実

① 保小中一貫教育を最大限に活かした教育の実践

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・ H23 年より小学校、中学校の一貫教育を行う公立の学校となった。(H25 年から保育園が連携)
- ・ 村内では、以前からイベント時に学校や地域の連携が行われてきた。

【計画】やろうとしたこと

- ・ 義務教育学校設立のための人材配置
- ・ 小中一貫推進事業

【事業内容(手段)】やったこと

- ・ 小中一貫推進事業として先進地視察や講師の招へい
- ・ 教育対策監の導入
- ・ 教育アドバイザーの導入(保育園に在籍 H28 のみ)
- ・ 「白川村教育会」による教員の連携とスキルアップ

【結果】できたこと

- ・ 先進地視察(石川県珠洲市、東京都三鷹市)
- ・ 教育対策監による義務教育学校設立検討及び準備
- ・ 「白川村教育会」として村教育委員会、白川郷学園の教員、保育士が連携
- ・ 「白川村教育会」による部会活動(月一回程度の研究授業)やスキルアップ研修
- ・ 小中合同の職員会議や、学年ブロック分けした取り組み

【初期成果】生じた価値や変化

- ・ 保小中の垣根を越えた情報共有や意見交換の機会、恒常的な連携が生まれた
- ・ スキルアップや他分野の視点の活用
- ・ 村としての一貫カリキュラムの実現

今後ほしい成果

- ・ 詳細な成果の把握(系統的なカリキュラムの完成度や改善度、情報共有や意見交換の度合、学校保護者や地域住民による連携)
- ・ 教える側の負担軽減の把握

【担当者の自己評価等】

A A(戦略として非常に効果があった)
 B(戦略として効果があった)
 C(効果が無かった)

- ・ 検証コメントを参考にしたい
- ・ 新たな KPI を参考に組み組みたい

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・ 子どもたちが生きていく力を養い、村の目標である「ひとり立ち」を実践する

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略 / 計画上の目的】

- ・ より良い保小中一貫教育を推進するための教職員のスキルアップ
- ・ 保護者や地域住民が新しい学校教育に対する理解を深める

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・ 保小中一貫教育推進に満足と回答する保護者の割合(%) H31 年 80
- ・ 教職員が自己評価する保小中一貫教育推進の達成度(%) H31 年 80

【対象】 園児 / 児童 / 生徒、教職員、保護者、地域住民

【担当】 学校教育係

【委員の事業評価】

A

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・3名
- B 成果が期待できる・・・3名
- C 成果が期待できない・・・0名

【課題】

できていないこと / 理由

- ・ 小中一貫教育を推進しているが、更なるバージョンアップのため義務教育学校を設置し、9年間一貫した系統的な教育姿勢を編成し、村独自の教育を目指す。

資金や、担当者の負担状況

- ・ 1小1中の小規模校であり、他市に比べて負担は少ない。

できたら良いこと / 理由

- ・ 保小中一貫教育の3つの柱(英語 / ふるさと / 生き方)に関する進捗や成果の公表会実施。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ 一貫カリキュラムの3つの柱に対する進捗状況(達成度%)
- ・ 教える側の負担感

【新たな KPI の候補について】

課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・0名

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・未計測である。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 6 子育て環境と教育環境の充実

戦略 18 交流活動の促進

① 国内外の姉妹・友好都市等の本質的な相互交流の促進

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・事業①震災後の支援として、子ども受け入れする地域はあったが、高齢者対象が無かったため、H25年より**飯館村からの観光受け入れ**(景観を活かした大人向け)をしてきた。
- ・事業②H24年より教育委員会による**読谷村**(人口5万人、沖縄県)との交流が始まり、雪を知らない村と海を知らない村の**小学6年生世帯が、互いにホームステイパートナー**となり、15名程度(ほぼ全員)が行き来してきた。
- ・事業③H17年に**姉妹友好協定**を調印した**イタリアのアルベロベッロ**(人口約1.1万人)があり、官民メンバーによる「愛する会」がある。
- ・事業④H26年に、**フランスのリクビル村と観光交流の協定**を結んでいる。

【計画】やろうとしたこと

- ・村の文化を世界に伝え、また世界の文化に村民がふれるため、国内外への視察の実施やシンポジウムの開催、人材招致による交流の場創出など、国内外の多様な人材との交流事業を実施する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・①60歳以上の飯館村民を観光受け入れ。
- ・②読谷村の小6生と交換ホームステイ継続。
- ・④調印から、毎年誰かしらが訪問している。クリスマスマーケットの視察で可能性を探った。

【結果】できたこと

- ・①60歳以上で初めての人が4年間で120名程度訪れた。公的な受け入れを終え、**住民間の交流という段階**に入った。
- ・②15名程度(6年生ほぼ全員)が交流し、累計**75名程度の世帯が交流**した。ジュニアリーダーも引率参加。
- ・③H27年に世界遺産20周年で招待して**一区切りとした**。H28年は特に無し。
- ・④H27年は副村長と課長が訪問し、**リクビルからの訪問**、H28年は議会と村長、担当者2名で訪問した。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・**住民間の交流**(イベント参加や個人間連絡、往来)
- ・ジュニアリーダーの活躍機会、企画力や実践力
- ・中3の海外研修(ほぼ全員参加)の備えになる
- ・県の動きとの連携強化

今後ほしい成果

- ・特に無し

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・異文化交流
- ・他所を知る事で**自分の村を見つめなおす機会**
- ・多様な環境を理解する機会によって子どもたちの力を養い、村の目標である「ひとり立ち」を实践する

【担当者の自己評価等】

B

- A(戦略として非常に効果があった)
- B(戦略として効果があった)
- C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組み組みたい

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口1,700人を維持
- 【戦略/計画上の目的】

- 【対象】 村民、児童/生徒、保護者
- 【担当】 産業振興係

- ・国内外の団体との交流を強化することで相互理解を深め、人材育成や技術供与などの積極的な事業実施を推進する

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・姉妹/友好都市等との年間交流回数(回) H26年2⇒H31年2
- ・国内外との交流に満足していると回答した人の割合(%) H22年21.5⇒H31年35.0

【委員の事業評価】

B

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

- 【事業について】 A非常に成果が期待できる・2名
- B成果が期待できる・・・3名
- C成果が期待できない・・・2名

《産学金労言》

- 特に教育は、特色あるので大いにやると良い。よその世界を見て、故郷をみた子はすごく可能性があるの将来への投資としてやるべき。
- それぞれの交流について目的を明確にすべき。
- リクビルが日本に来ない、互いにやり取りする産物がない、何のための交流かわからない、などの文言から、年間600万円を拠出する根拠が明確でないと思われます。特に海外の事業は費用対効果の面で見直す必要がないでしょうか。
- 子供の減少する中、大変いい教育方法だと思います。

《官》

- 村のイメージ付けとしては有意義ではあるが、着地点を明確にする必要があると思われる。

- 【新たなKPIの候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・5名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・1名

【課題】

できていないこと/理由

- ・事業②インフルエンザによる受け入れ困難があった。また、冬の受け入れができないという世帯に夏の不参加がある。
- ・事業③**何のための交流か**が不明確になっている。
- ・事業④互いに輸出入する等の成果は無く、リクビル側には、**日本に行けないことへの申し訳なさ**や住民の反発がある。

資金や、担当者の負担状況

- ・特に無し

できたら良いこと/理由

- ・特に無し

【ヒアリングを踏まえたKPIの候補】

- 課題解決や成果状況を把握する目安
- ・**本事業を契機とする住民間交流(往来)の数(人)**

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・満足度は未計測である。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向 6 子育て環境と教育環境の充実

戦略 18 交流活動の促進

② 村民が異国文化や多国語に親しむ環境の整備

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・ H25 年より保育園、小学校、中学校の一貫教育を行う公立の学校となった。
- ・ 村内では、以前からイベント時に学校や地域の連携が行われてきた。
- ・ 村には、外国人観光客が多く訪れる。
- ・ 海外から村を見つめなおす機会として、H5 年より中学生のオーストラリア研修を実施。

【計画】やろうとしたこと

- ・ 子どもたちが外国人観光客との交流を通じて外国語に親しめる環境を整備するなど、国際化に向けた村民の国際交流活動を支援する。
- ・ 活動成果を村づくりに還元する仕組みを検討する。
- ・ ふるさと博士の仕組み

【事業内容(手段)】やったこと

- ・ 世界遺産集落を教材とした授業
- ・ ALT(外国語指導助手)の導入
- ・ 中学生のオーストラリア研修

【結果】できたこと

- ・ 世界遺産集落を教材として、タブレットを用いて外国人に英語でプレゼンテーションを行う授業
- ・ ALT(外国語指導助手)を小中学校に導入し、保育園にも週1回とした。(国の国際交流施策であるJETプログラム活用)
- ・ 中学3年生全員のオーストラリア研修
- ・ 白川郷ふるさとカルタによる学びの実践

【初期成果】生じた価値や変化

- ・ 村の教育の3つの柱「英語 / ふるさと / 生き方」の進捗
- ・ 興味や学びの入口の機会提供

今後ほしい成果

- ・ 特に無し

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・ 子どもたちのグローバル人材としての力を養い、村の目標である「ひとり立ち」を実践する

【担当者の自己評価等】

A

- A(戦略として非常に効果があった)
- B(戦略として効果があった)
- C(効果がなかった)

- ・ 検証コメントを参考にしたい
- ・ 新たな KPI を参考に組みたい

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
- 【戦略 / 計画上の目的】

【対象】 園児 / 児童 / 生徒、保護者、村民

【担当】 学校教育係、商工観光係

- ・ 国内外の団体との交流を強化することで相互理解を深め、人材育成や技術供与などの積極的な事業実施を推進する

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・ 国内外との交流に満足していると回答した人の割合(%)
H22 年 21.5⇒H31 年 35.0

【委員の事業評価】

A

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

【事業について】

- A 非常に成果が期待できる・3名
- B 成果が期待できる・・・4名
- C 成果が期待できない・・・0名

【課題】

できていないこと / 理由

- ・ ALT(外国語指導助手)は1人なので限界があり、教員としては素人である。制度や彼らの主目的である国際交流に注力していくことが課題。

資金や、担当者の負担状況

- ・ 学校教育係としては、手を動かすよりも考えることが多い

できたら良いこと / 理由

- ・ 保小中一貫教育の3つの柱(英語 / ふるさと / 生き方)に関する進捗や成果を、見えるようにする。
- ・ リアルな内容として外国の生活を題材に学び、ALT 個人の来日目的や生きざまを見せることで、無用なハードルを下げる。
- ・ コミュニケーションできるようになり、話すことでつながれるようになる。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ 一貫カリキュラムの3つの柱に対する進捗状況(%)

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・0名

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・満足度は未計測である。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向7 村民が参加する行政運営の実現

戦略 19 積極的な村民参加体制の確立

① 地域住民をはじめ産官学金労言が参画する「(仮称)総合戦略推進組織」の設置

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・村民参加の村づくりを推進するため、審議会や委員会などへの村民参加を積極的に推奨し、各種懇談会の実施を通じて、意見・要望などの村民の声の把握に努めるほか、広報誌などによる行政情報の提供を行ってきた。
- ・委員会や懇談会等への参加者には偏りがあり、主体的に村民が村づくりに参加しているとは言い切れない現状がある。
- ・村民の自治意識の高揚を図り、参加機会の拡充や発言しやすい雰囲気づくりに努める必要がある。

【計画】やろうとしたこと

- ・産学官学金労言が参画する総合戦略及び総合計画の推進組織を設置し、戦略の立案、推進、見直しや重要業績評価指標(KPI)の評価検証を実施し、PDCAサイクルを推進する。※PDCAサイクルとは、Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4段階を繰り返すことで業務を円滑に継続的に改善する手法の一つ。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・Check(評価)とAction(改善)のための、総合戦略検証委員会の開催

【結果】できたこと

- ・H28年9月、国の地方創生関連事業(7事業)に限り、産学官学金労言が参画する総合戦略検証委員会を実施した。
※国の指定要件である労(労働組合)と産について、商工会と観光協会にお願いした。
- ・検証対象となった事業に対して、KPIや事業内容とその改善についてコメントを得た。
※時間を有効活用するため、委員会として意見をまとめるのではなく、それぞれの立場から意見を述べ、事務局が受け止める形で実施した。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・事業内容とその改善に対するコメント

今後ほしい成果

- ・事業担当者のCheck(評価)への関心度
- ・事業担当者によるAction(改善)への反映
- ・組織内や村民の施策理解度向上につながる

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・事業のPDCAサイクルに役立つ
- ・村政への村民参加体制の実現定着
- ・事業の改善強化や、整理の意思決定実現(行政効率の向上)

【担当者の自己評価等】

B A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・検証コメントを参考にしたい
- ・新たなKPIを参考に組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・満足度は未計測である。
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
- 【戦略/計画上の目的】

- 【対象】 村民
- 【担当】 産業振興係

- ・幅広い村民の村政への参加機会を拡充しつつ、今後の村づくりを担っていく人材の育成を行う

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「村政への村民参加に満足している」と回答した村民の割合(%)
H22年 16.5⇒H31年 30

【委員の事業評価】

A Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

- 【事業について】 A 非常に成果が期待できる・2名
B 成果が期待できる・・・4名
C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- 検証委員会構成について、「より民が主体的」となるために、各層の村民を加えるべき。女性が入ると良い。いるとかなり違う。普通の方が居た方が良く、公募でなく指名が良い。

【課題】

できていないこと/理由

- ・総合戦略は、国の示すスケジュールに間に合わせるために短時間で策定したため、事業成果を追求する視点からは、重要業績評価指標(KPI)の設定に改善の余地がある。
- ・限られた委員会の回数と時間の中で、事業内容を理解し、KPIを踏まえて役立つコメントをすることは難しい。
- ・評価検証のための情報として、何を示せば役立つか、各事業の担当者による共通認識が難しい。

資金や、担当者の負担状況

- ・検証に必要な情報収集をしていきたいが、通常業務に追加される形の業務負担となる。
- ・各事業の担当者が、評価シートの作成に費やす時間や労力、表現内容にはムラが生じる。

できたら良いこと/理由

- ・事業担当者が参考/反映しやすい、実効的な評価検証を実現するため、コメントに必要な情報を収集整理して評価委員会で示す。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・「総合戦略の事業改善に意見が反映されている」と回答した委員(%)

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・5名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- 設置する組織には、委員メンバーには、各層の村民を加えるべき。民が自主的、主体的にするため

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向7 村民が参加する行政運営の実現

戦略 19 積極的な村民参加体制の確立

②「ワカモノ未来会議」による人材育成

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・高校生が村外に暮らすことが多かった過去から、高校生、大学生、青年の村政への参加機会が手薄であった。
- ・高速道路開通により多くの**高校生が通学できるようになってから**、子どもと大人の間位置する**高校生の、村における活躍の場が必要になっていた。**(ジュニアリーダーへの注目)
- ・若手村民の活躍の場として、観光協会青年部の商品づくりなどがある。

【計画】やろうとしたこと

- ・「ワカモノ未来会議」など、村が抱える課題について若手を中心とする村民が学び、協議する場を整備する。
- ・活動を通じて、村づくりの方向性の検討やジュニアリーダーなど人材を育成する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・子ども未来会議、ワカモノ未来会議、白川郷ヒト大学

【結果】できたこと

- ・子ども未来会議を学校の地域公開日に合わせて開催した。子どもと大人(青年 / 親 / 地域の人 / ジュニアリーダー)が参加し、**地域で頑張っている人の話**を聞いた。
- ・ワカモノ未来会議として、**村民が企画立案実現する機会**をつくった。青年会の夏まつりで子どもたちが遊ぶレクリエーションや、南部地区での運動会企画など、参加村民が活躍している。
- ・地域おこし協力隊員が、白川郷ヒト大学として、地域内外の多様なヒトをフックにして「仕事づくり」など地域課題の解決に取り組んだ。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・ジュニアリーダー(**高校生等**)の**活躍機会**の増大
- ・各種事業の**若者による実現力向上**
- ・村内に暮らす「やりたい人(積極的な人)」の見える化
- ・村の教育3本柱の、「**ふるさと / 生き方**」の進捗
- ・興味や学びの入口機会

今後ほしい成果

- ・地域団体にとっての担い手人材の育成や連携

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・子どもたちのグローバル人材としての力を養い、村の目標である「ひとり立ち」を実践する
- ・いずれ帰ってきたくなる村となることで、村づくりの担い手を維持確保する

【担当者の自己評価等】

A

- A(戦略として非常に効果があった)
- B(戦略として効果があった)
- C(効果が無かった)

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・満足度は未計測である。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

- 【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
- 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
- 【戦略 / 計画上の目的】

- 【対象】 中学・高校生～青年の若手村民
- 【担当】 産業振興係、商工観光係、社会教育係

- ・幅広い村民の村政への参加機会を拡充しつつ、今後の村づくりを担っていく人材の育成を行う

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・「村政への村民参加に満足している」と回答した村民の割合(%)
H22年 16.5⇒H31年 30

【委員の事業評価】

B

Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

検証委員会より

- 【事業について】 A 非常に成果が期待できる・1名
B 成果が期待できる・・・5名
C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- (村内に)色々な業種があるので、職場体験を実施してはどうか。

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

- 課題解決や成果状況を把握する目安
- ・未来会議やヒト大学の開催数と「実」参加者数(人)
- ・村民参加体制が契機や接点となる住民活動や事業関与の数
- ・村の教育の3本柱「ふるさと / 生き方」に対する進捗状況(%)

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・6名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・0名

※成果 / KPI に関する意見の人数は、複数回答 / 未回答がある。

白川村総合戦略 基本的方向7 村民が参加する行政運営の実現

戦略 20 効果的な行政運営

①「地域おこし協力隊」を登用した村の活性化

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策 / 総合戦略に位置づけられたか

- ・国の制度は以前からあったが、総合計画には無く、総合戦略(総合計画の後期)で新たに盛り込んだ。
- ・最長3年の任期で、都市部からの人材登用を行う制度「地域おこし協力隊」は、満了時まで、転出するケース、事業者となるケース、行政職員となるケースがある。

【計画】やろうとしたこと

- ・ **個性的な事業**計画を提案する「地域おこし協力隊」の登用と、その活動実現を支援し、村の活性化に向けた様々な取り組みを実践する。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・ 地域おこし協力隊の登用
- ・ 地域おこし協力隊の活動支援

【結果】できたこと

- ・ 累計8名を登用した。
H26.1より2名⇒**村内起業**して、企業版ふるさと納税の活用など個性的事業展開。もう1名は他地域(関東)にて地域おこし協力隊。H26.4より1名⇒退任して関東で地域づくりの仕事。
H27.4より4名⇒1名は**村内男性と結婚**して退任し、3名が在任中で、①**移住コンシェルジュ**や古道具の販売、②**サードプレイスづくり**、③小中学生との「かやっこ劇団」や**独居老人訪問**に取り組んでいる(休学中の大学生)。H28.6より1名⇒映像製作の前職スキルに村内ニーズが高く、**情報発信業務**に取り組むつつ**起業検討中**。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・ **事業化や結婚による定住**(10人に1人でも成功)
- ・ 村外や民間企業からの**ノウハウの吸収**

今後ほしい成果

- ・ 村内の**子どもたちが生き方の幅**を拓ける
- ・ 刺激や影響を受けて**村民の自立性**が向上

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・ **移住定住**
- ・ **行政組織の活性化**
- ・ 前向きな村民の生き方

【担当者の自己評価等】

A A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)

- ・ 検証コメントを参考にしたい
- ・ 新たなKPIを参考に組みたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	○
	村が事業を実施する理由は妥当か	○
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	○
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	○
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	・満足度は未計測である。
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口1,700人を維持
 【戦略/計画上の目的】

【対象】 役場職員、地域おこし協力隊員
 【担当】 産業振興係

- ・ 行政改革を継続して実施し、村民に適切な行政サービスを提供できる村民のための役場づくり

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・ 計画に記載した指標全体の達成率(%) H27年54⇒H31年70
- ・ 「地域おこし協力隊による村の活性化に満足」との回答割合(%)
現状無し⇒H31年50

【委員の事業評価】

B Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

【課題】

できていないこと/理由

- ・ 個性的事業を、役場内部や村民が評価できず、「自由にやらせすぎ」「民意がついてこない」となる。登用される側と受容/活用する側の間にズレがある。
- ・ 役場職員と志向が異なる点(強みでもある)、**仕組みを理解する機会が少ない点、導入意義や成果の認識が人により異なる点**が課題。
- ・ 移住以外の価値である行政や村民への「刺激」「外の目線」など、3年の任期のみで成果を測ることが難しい。
- ・ ニーズが一部の人に留まる。

資金や、担当者の負担状況

- ・ 資金は国費だが、隊員個々とのコミュニケーションやコーディネート、フォローアップなど、担当者の**業務量は非常に大きい**。

できたら良いこと/理由

- ・ 個性的な**事業計画を評価活用**できるような、認識の共有と許容度の向上。
- ・ **村内企業へのインターン**(行政で雇用して民間で活かすため、対応等の**業務コストが低くすむ**)
※道の駅や元隊員の事業等にとって人的資源となる。

【ヒアリングを踏まえたKPIの候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・ **地域おこし協力隊員の活動に協力や参加した実人数(成果や意義の理解者候補)(人)**
- ・ **地域おこし協力隊員の事業化や結婚による定住(人)**

検証委員会より

【事業について】 A 非常に成果が期待できる・1名
B 成果が期待できる・・・6名
C 成果が期待できない・・・0名

《産学金労言》

- はじめから事業化を目的とする人を協力隊に呼ぶ。現状ではお金(給料)が安くて続かない。結婚ではなく、事業を起して住んでもらうのが目標である。そのためには国の予算(の範囲内)では限界があり、300万ではなく一人700万3年にするなど、白川村オリジナルの施策としてはどうか。
 - 村民の意見として「ちょっと協力隊に頼りすぎではないか」というものがある。もっと村民から(案を)出して、協力隊に沿ってもらえるのが良いのではないかと。一生懸命やってくれてうれしいが、村らしさなど、もっと共鳴できるようになるように仕向けていく必要がある。協力隊に頼りすぎにならないように。
 - 地域おこし協力隊が事業を計画する段階から村民が関わると良いのではないかと。任期後に誰がそれをやるのか、引き受ける側も関わっていないと引き受けにくい。
 - 活動内容の共有化(活動計画段階からフォローまで)が必要である。
- 《官》
- 協力隊任期が3年という中で、個々の取組が今後継続して行く調整がなされているのか(調整していく必要がある)。

【新たなKPIの候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

採用に賛同する・・・5名
条件付きで賛同・・・1名
他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- 事業を起して住んでもらいたいというのが目標である。
- 設定したKPIが設定した期間内に満足しなければ、費用が大きいことから事業規模の見直し等があることを期待します。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。

白川村総合計画 3-1 健康な村民で賑わう村づくり

3-1-2 スポーツ・レクリエーション活動の振興

① 村営スキー場の利活用促進及び将来方向性について検討

担当者ヒアリングより

※今後に活かせる評価(コメント)を得るため、課としての答弁ではなく、担い手である職員の認識をたずねた。

【背景】そもそもの出発点や、なぜ施策/総合戦略に位置づけられたか

- ・白川郷平瀬温泉サービス協同組合が、宿泊客を誘客するためにスキー場。
- ・村民としては、利便性と自前のスキー場を持つ誇りがあった。土地所有は木谷地区。
- ・H20年頃より村営に移行し、一般会計からの繰入金で維持している。
- ・リフトは平成元年頃に設置し、H15年に延長している。
- ・スキー場の情報発信は、宣伝費ゼロで、情報サイトへの掲載のみとなっている。
- ・圧雪や施設管理の委託費用は、地元業者に一般的水準より安く依頼できている。
- ・索道(リフト)関係で6~7名が雇用されており、冬の仕事になっている。

【計画】やろうとしたこと

- ・ウインタースポーツの振興を図る。
- ・老朽化した村営スキー場の将来の方向性について早急に検討を進める。

【事業内容(手段)】やったこと

- ・スキー場検討委員会

【結果】できたこと

- ・木谷地区と平瀬地区の区長、観光協会長、平瀬の旅館組合長(観光協会副会長)、スキークラブ、ジュニアスキークラブ指導者等と行政にて、説明会を含めて3回の検討を行った。
※大改修に対する**方向性(存廃を含む)を検討する目的であったが、存廃ではなく運営の検討機会となった。**
- ・リフト代として、H26年は300万円、H27年は雪不足で150万円が収入になる。

【初期成果】生じた価値や変化

- ・村民スキー大会を**村民が楽しんだ**
- ・村出身のスキー**選手が生まれている**
- ・**雇用**の維持

今後ほしい成果

- ・財政的な改善

【長期成果】将来的にねらいたいこと

- ・**村の誇り**(スポーツ環境や選手)
- ・**雇用の安定確保**

【担当者の自己評価等】

- B** A(戦略として非常に効果があった)
B(戦略として効果があった)
C(効果が無かった)
- ・検証コメントを参考にしたい

ヒアリング内容に基づく評価案(該当するものに○)		○とならない理由(課題)
妥当性	住民等のニーズは高いか	・満足度は未計測である。
	村が事業を実施する理由は妥当か	
効率性	事業の質を落とさずにコスト削減が図られているか	
	事業の実施手法は最適なものとなっているか	
有効性	想定した事業目標(KPI)を達成できたか	
	事業成果が上位施策(KPI)に貢献しているか	

【基本目標】 日本一美しい村 白川郷
 【数値目標】 現在人口 1,700 人を維持
 【戦略/計画上の目的】

- ・村民一人ひとりが、生涯にわたってスポーツ・レクリエーションに親しみ、心身共に健康で生きがいのある生活を送れるように、スポーツ活動の振興を図る。

【KPI(重要業績評価指標)】

- ・スポーツ施設や運動施設の状況に満足しているとの回答割合(%)
H22年 25.9⇒H31年 40.0

【対象】 村民
 【担当】 商工観光係

【委員の事業評価】

B Bを基準にAを加点1、Cを減点1として、委員回答の合計が2点以上ならA、-2点以下ならC、それ以外をBとした相対評価。

【課題】

できていないこと/理由

- ・いずれ訪れる**大改修のコストにどう対応するか。**
- ・**公営企業の見直しの対象となりうる**、財政的課題。
- ・赤字の施設をどこまで残すか、村民意識の課題。
- ・村ではコンスタントにスキー選手を輩出しており、**社会教育としての価値をどこまで見るか村民意識**の課題。

資金や、担当者の負担状況

- ・毎年 2000 万円程度の支出があり、そもそもリフト代ではまかない切れない。リフトの改修はさらに追加支出となる。
- ・担当者は、冬の間、大きな業務負担を抱える。

できたら良いこと/理由

- ・**方向性の決め方が定まる。**

【ヒアリングを踏まえた KPI の候補】

課題解決や成果状況を把握する目安

- ・**施設利用者数(人)**
- ・**スキー場への繰入額(円)**

検証委員会より

- 【事業について】 A 非常に成果が期待できる・1名
B 成果が期待できる・・・4名
C 成果が期待できない・・・1名

《産学金労言》

- スキー場は費用対効果からやめるべきだと思うが、存廃でない運営の検討に可能性がある。やめるのは簡単であり、活用する話があり一生懸命にやるのなら、最終的にやめることになるかもしれないが大いに議論すると良い。
- 営業日数が非常に短いスキー場なので、冬期のスキー場だけの経営は無理。夏使える施設として料金収入をあげ、利益還元がスキー場のリフトというくらいにしないと継続が難しい。例えば、リフト活用として年間利用する観光客を誘致して、体験観光(白山が見える)を売り出す。夏にリフト終点から建設工事用モノレールを用いて白山が見えるところに誘客し、帰りはロープで流す(ジップラインアドベンチャーひるがのや、冒険の森 in 石徹白で用いられているジップライン)など、スリルと景観と温泉を取り入れて、外国の団体客に提供する。
- 費用対効果
- 年間 2000 万は大きい。費用を抑える方法を早急に考える必要がある。PFI や売却などの運営方法転換が検討されることを期待します。
- 郡上市の高鷲町は大手スキー場運営会社とのタイアップで回復した。タイアップが必要で、アドバイスをもらうのも一つの手である。
- 《官》
- 協力隊任期が3年という中で、個々の取組が今後継続して行く調整がなされているのか(調整していく必要がある)。

【新たな KPI の候補について】 課題解決や成果状況を把握する目安として

- 採用に賛同する・・・5名
- 条件付きで賛同・・・0名
- 他指標を提案・・・1名

《産学金労言》

- 何を指標にしていくのかを見守りたい。
- この事業は、スキー場検討委員会の実施を主目的としたものと理解しました。利活用の議論がない中で利用者数を目的に掲げる必然性はあるのでしょうか。また、スキー場の運営に関する計画 or 存廃の意思決定を KPI としてはいかがでしょうか。

※成果/KPIに関する意見の人数は、複数回答/未回答がある。